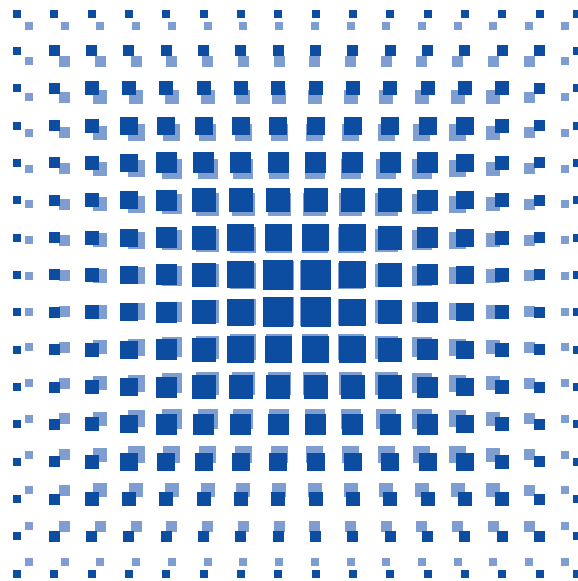
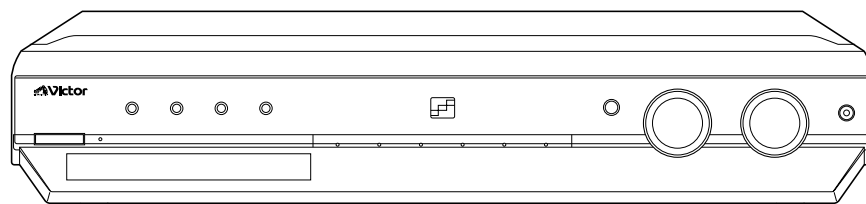
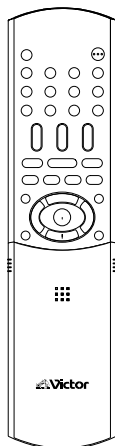
AUDIO/VIDEO コントロールアンプ

型名 **RX-ES1**

Audio/Video Control Amplifier
RX-ES1

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4～ 7ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

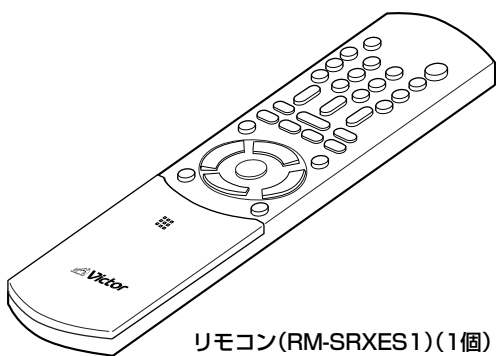
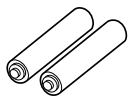
LVT1002-015A

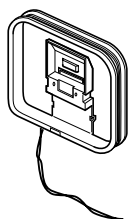
はじめに

本機の特長

高音質デジタルアンプ「DEUS」を搭載
デジタルパワーアンプの「小型」「軽量」「高効率」という特長を活かしながら、アンプ内で生成されたデジタル信号とアナログ信号をそれぞれフィードバックする「ハイブリッド・フィードバック」技術により、高音質オーディオ特性を実現させせました。
デジタル信号処理技術のみでは解決できない高音質デジタルパワーアンプ固有の問題点を、アナログ信号処理技術を加えることによって解決し、これに新開発のコア技術に加え、長年にわたり培ってきたハイエンド・オーディオアンプ設計技術を応用しました。
この新開発デジタルアンプの名称を、当社の普遍的な高音質サウンドに対する姿勢を表現した言葉の頭文字を取り「DEUS（Digital Emotional Universal Sound）」と命名しました。

付属品

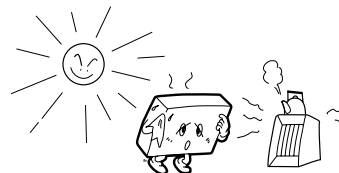
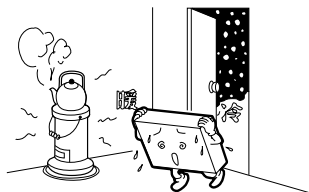
お使いになる前に付属品をお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リモコン（RM-SRXES1）（1個）

単3形乾電池（2本）
（リモコン動作確認用）

FM簡易型アンテナ（1本）

AMループアンテナ（1個）

• このほかに、取扱説明書（本書）や保証書が添付されています。

本機の置き場所について

本機は－5℃から35℃までの温度で使用できるように設計されています。この範囲外の温度環境で使用すると、誤動作をしたり、故障の原因となります。また故障などを防止するため次の場所は避けてください。

・ 湿気やほこりの多い所

・ 直射日光が当たる所や暖房器のそば

・ 寒い所から急に暖かい部屋へ移動したあとしばらくの間

・ 極端に寒い所

・ 磁気を発生する所
・ 振動の激しい所
・ OA機器やけい光灯のすぐそば

■ 音楽を聞くときのエチケット

音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

もくじ

お使いになる前に　ページ

ふだんの使いかた　ページ

設定・調節する　ページ

サラウンド　ページ

その他の操作　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

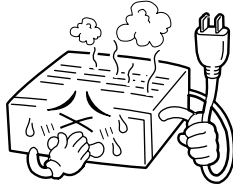
万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

・煙が出ている、へんなにおいがするとき

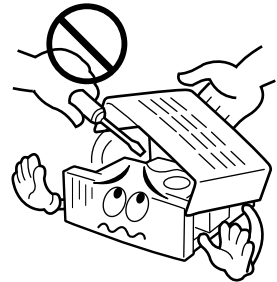
電源プラグを抜く

・内部に水や異物が入ってしまったとき
・落としたり、破損したとき
・電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

電源プラグを抜く

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜く。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。カバーを外さない。

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

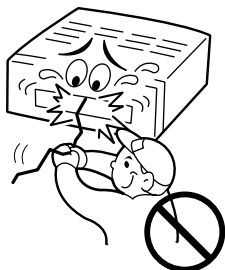
分解禁止

風呂場やシャワー室では使用しない。

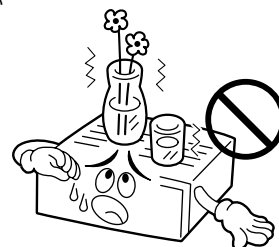
本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

水場での使用禁止

⚠警告

本機の中に物を入れない。

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。特に、次のことに注意してください。

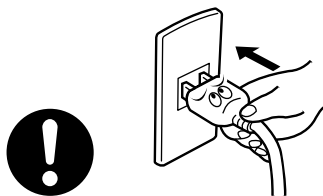
- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

感電の原因となります。

接触禁止

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災·感電の原因となります。本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。
電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

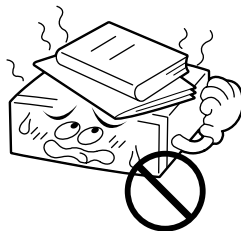
- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm以上離してください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

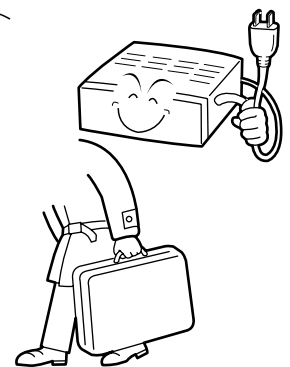
次のような所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い所
- 直射日光の当たる所や、熱器具の近くなど高温になる所
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすい所

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

使用中の本体の温度上昇について

使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

設置についてのご注意

故障などを防止するため次の場所は避けてください。

- 不安定な所
- 振動の激しい所
- 湿気やほこりの多い所

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1～2時間待ってから電源を入れてください。

⚠注意

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

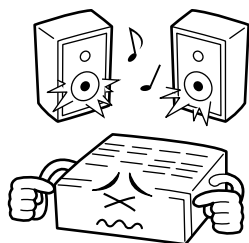
突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。
電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

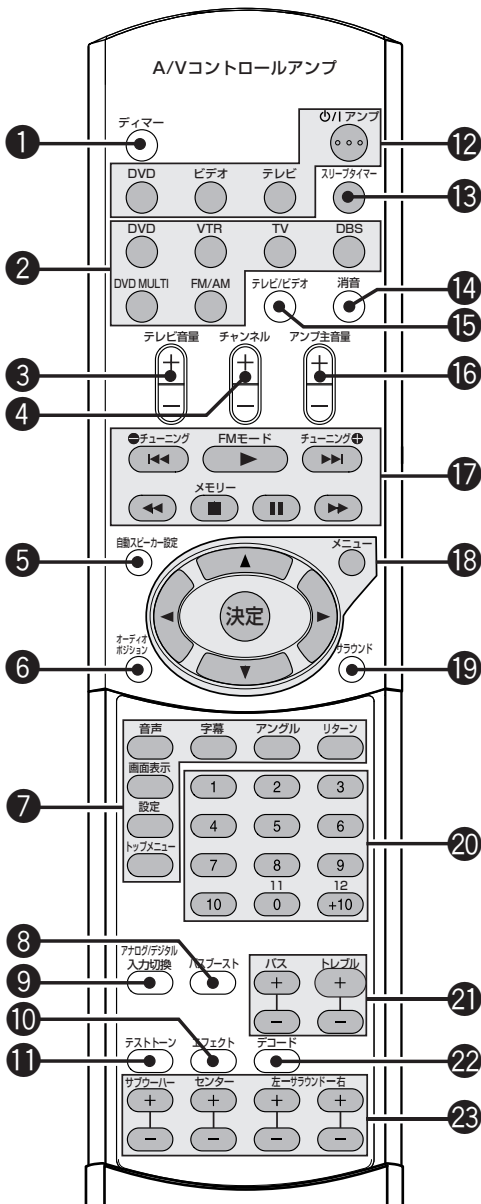
電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災･けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス(+)とマイナス(−)を間違えない

- 電池のプラス(+)とマイナス(−)をショートさせない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

各部の名前 —( )内のページに説明があります。—

リモコン

（フタを開けたところ）

❶ **ディマーボタン**(➡ ***22*** ページ)
❷ **ソース機器選択ボタン**(➡ ***20、25*** ページ)
- DVDボタン
- VTRボタン
- TVボタン
- DBSボタン
- DVD MULTI（マルチ）ボタン
- FM/AMボタン

❸ **テレビ音量(+/−)ボタン**(➡ ***45、46*** ページ)
❹ **チャンネル(+/−)ボタン**(➡ ***45、46*** ページ)
❺ **自動スピーカー設定ボタン**(➡ ***29*** ページ)
❻ **オーディオポジションボタン**(➡ ***24*** ページ)
❼ **DVDプレーヤー操作ボタン**(➡ ***45*** ページ)
- 音声ボタン
- 画面表示ボタン
- 設定ボタン
- トップメニューボタン
- 字幕ボタン
- アングルボタン
- リターンボタン

❽ **バスブーストボタン**(➡ ***24*** ページ)
❾ **アナログ/デジタル入力切換ボタン**(➡ ***23*** ページ)
❿ **エフェクトボタン**(➡ ***42*** ページ)
⓫ **テストトーンボタン**(➡ ***42*** ページ)
⓬ **電源ボタン**(➡ ***20、45～47*** ページ)
- ⏻/I アンプボタン
- ⏻/I DVDボタン
- ⏻/I ビデオボタン
- ⏻/I テレビボタン

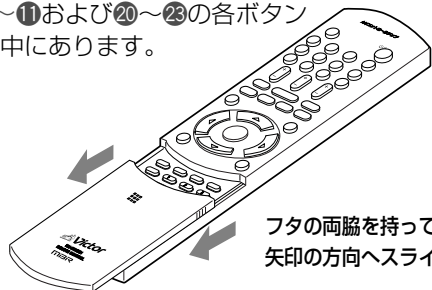
⓭ **スリープタイマーボタン**(➡ ***22*** ページ)
⓮ **消音ボタン**(➡ ***22*** ページ)
⓯ **テレビ/ビデオボタン**(➡ ***45、46*** ページ)
⓰ **アンプ主音量(+/−)ボタン**(➡ ***20*** ページ)
⓱ **操作ボタン**(➡ ***25～27、45～47*** ページ)
- ▶▶|ボタンと|◀◀ボタン
  チューニング(⊕/⊖)ボタン
- ▶ (再生)ボタン
  FMモードボタン
- ▶▶ボタンと◀◀ボタン
- ■ (停止)ボタン
  メモリーボタン
- ❚❚ (一時停止)ボタン

◦ **DVDメニュー操作ボタン**(➡ ***45、47*** ページ)
- メニューボタン
- カーソル(▲、▼、▶、◀)
- 決定ボタン

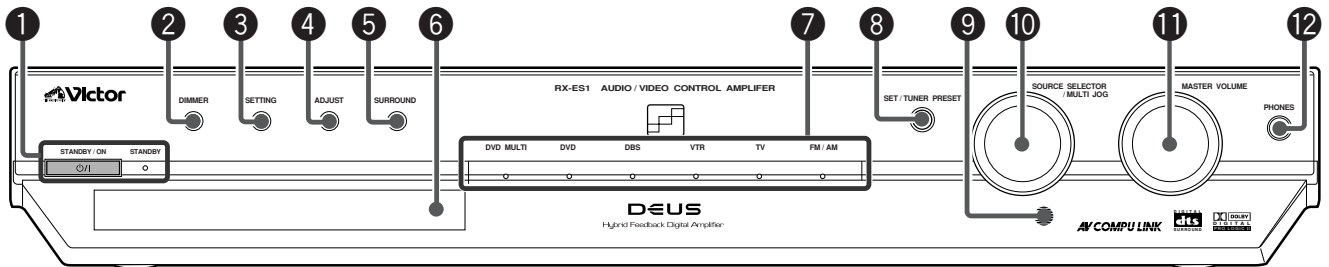
⓳ **サラウンドボタン**(➡ ***41*** ページ)
⓴ **数字ボタン**(➡ ***25、26、45～47*** ページ)
㉑ **音質調節ボタン**(➡ ***24*** ページ)
- バス(+/−)ボタン
- トレブル(+/−)ボタン

㉒ **デコードボタン**(➡ ***23*** ページ)
㉓ **音量調節ボタン**(➡ ***42*** ページ)
- サブウーハー(+/−)ボタン
- センター(+/−)ボタン
- サラウンド･左(+/−)ボタン
- サラウンド･右(+/−)ボタン

フタの開けかた

上図の❼～⓫および⓴～㉓の各ボタンは、フタの中にあります。

フタの両脇を持って、
矢印の方向へスライドさせる

本体

前　面

❶ ⏻/I STANDBY（スタンバイ）/ON（オン）ボタンとSTANDBY（スタンバイ）ランプ
（➡ ***21*** ページ）
電源の「入」⟷「切」をするとき押します。
STANDBYランプは、電源を「切」にすると赤く点灯し、電源を「入」にすると消えます。

❷ DIMMER（ディマー）ボタン（➡ ***22*** ページ）

❸ SETTING（セッティング）ボタン（➡ ***30***、***32***、***34*** ページ）
スピーカーの設定など基本的な設定のとき使います。

❹ ADJUST（アジャスト）ボタン（➡ ***37*** ページ）
音量・音質を調節するとき使います。

❺ SURROUND（サラウンド）ボタン（➡ ***41*** ページ）
サラウンドモードを選ぶとき使います。

❻ 表示窓
10 ページの説明をご参照ください。

❼ ソース表示ランプ、イルミネーションランプ（➡ ***22*** ページ）
現在選ばれているソースを表示します。
イルミネーションランプは電源が「入」になると点灯します。

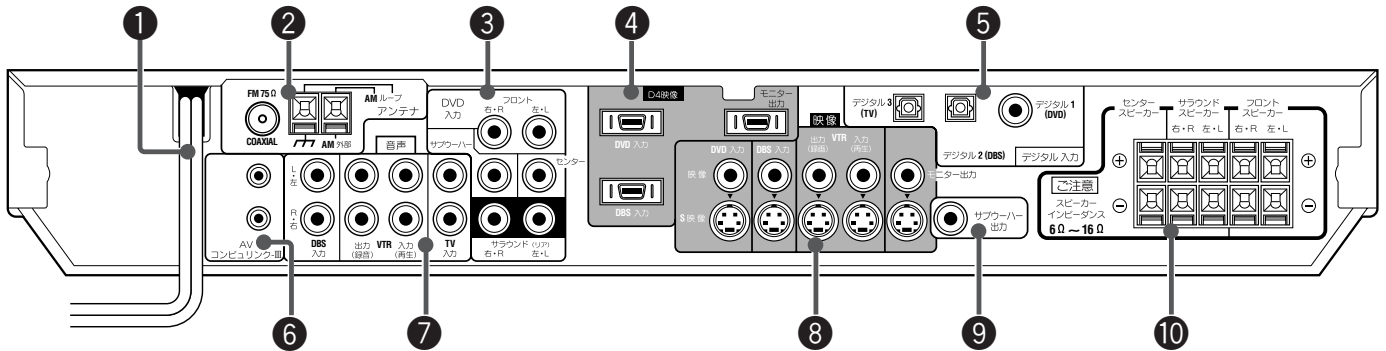
❽ SET（セット）/TUNER PRESET（チューナープリセット）ボタン
（➡ ***26***、***30***～***32***、***34***、***37*** ページ）

❾ リモコン受光部

❿ SOURCE（ソース） SELECTOR（セレクター） / MULTI（マルチ） JOG（ジョグ）つまみ

⓫ MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム） つまみ（➡ ***21*** ページ）
主音量を調節します。

⓬ PHONES（ホーンズ）端子（➡ ***21*** ページ）

背　面

❶ 電源コード（➡ ***19*** ページ）
家庭用のコンセント（交流 100V）に接続します。

❷ アンテナ端子（➡ ***11*** ページ）
FMおよびAMアンテナを接続します。

❸ DVD入力（5.1チャンネルアナログ入力）端子
（➡ ***14*** ページ）
アナログ5.1チャンネル、アナログ2チャンネル出力端子のあるDVDプレーヤーと接続します。

❹ D4映像入出力端子（➡ ***15***、***17***、***18*** ページ）
D端子付きのビデオ機器（DVDプレーヤーやBS/CSデジタルチューナー、TV）と接続します。

❺ デジタル入力端子（➡ ***14***、***17***、***18*** ページ）
外部機器のデジタル音声出力端子と接続します。同軸デジタル端子（デジタル1）と、光デジタル端子（デジタル2、3）があります。

❻ AVコンピュリンク-Ⅲ端子（➡ ***44*** ページ）
他のビクター製ビデオ機器のAVコンピュリンク端子と接続します。

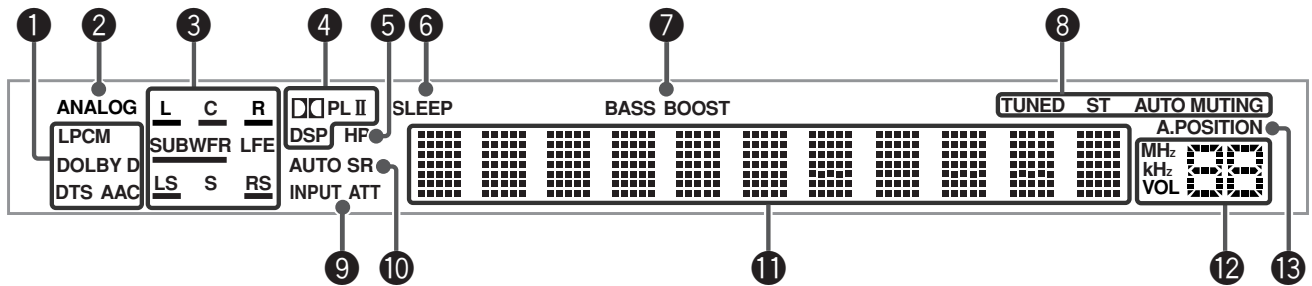
❼ 音声入出力端子（➡***16***～***18*** ページ）
入力端子：TV、VTR、DBS
出力端子：VTR

❽ 映像入出力端子（➡ ***15***～***18*** ページ）
入力端子：VTR、DBS、DVD
出力端子：VTR、モニター出力
入出力ともに、コンポジット端子とS端子があります。

❾ サブウーハー出力端子（➡ ***13*** ページ）
サブウーハーを接続します。

❿ スピーカー端子（➡ ***13*** ページ）
スピーカーを接続します。

本体(つづき)

表示窓

❶ **デジタル音声フォーマット表示**(➡ ***23*、*39*** ページ)
LPCM表示、DOLBY D表示、DTS表示、AAC表示

❷ **ANALOG表示**(➡ ***23*** ページ)
音声入力がアナログのとき点灯します。

❸ **スピーカー表示/音声チャンネル信号**
入力している音声チャンネル信号と、スピーカーの動作状態に合わせて点灯します。下の「スピーカー表示/音声チャンネル信号表示について」をご覧ください。

❹ **サラウンドモード表示**(➡ ***40*** ページ)
PLII 表示、DSP表示

❺ **HP表示**(➡ ***21*** ページ)
ヘッドホンを使うと点灯します。

❻ **SLEEP表示**(➡ ***22*** ページ)
おやすみタイマーを使うとき点灯します。

❼ **BASS BOOST表示**(➡ ***24*** ページ)
バスブーストを使っているとき点灯します。

❽ **ラジオ受信表示**(➡ ***25***〜***27*** ページ)
TUNED表示、ST表示、AUTO MUTING表示

❾ **INPUT ATT表示**(➡ ***38*** ページ)
インプットアッテネーターを使っているとき点灯します。

❿ **AUTO SR表示**(➡ ***35*** ページ)
オートサラウンドが「ON」のとき点灯します。

⓫ **文字表示部**
サラウンドモード名や選んでいるソース名などを表示します。

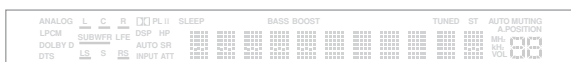
⓬ **周波数/ボリューム表示部**
MHz表示、kHz表示、VOL表示

⓭ **A. POSITION表示**(➡ ***24*** ページ)
オーディオポジションを使っているとき点灯します。

スピーカー表示/音声チャンネル信号表示について

入力している音声チャンネル信号とスピーカーを表示します。

スピーカー表示

- サブウーハーの設定を「YES」[または簡単スピーカー設定(QUICK SETUP)時に「USE」]にしているときは(➡ ***31*、*32*** ページ)、SUBWFR表示が点灯します。
- サブウーハー以外のスピーカーは、選択中のサラウンドに有効なスピーカー表示のみが点灯します。

音声チャンネル信号表示

- **L** ： 左フロントチャンネル
- **R** ： 右フロントチャンネル
- **C** ： センターチャンネル
- **LS** ： 左サラウンドチャンネル
- **RS** ： 右サラウンドチャンネル
- **S** ： モノラルサラウンドチャンネル
- **LFE** ： LFEチャンネル

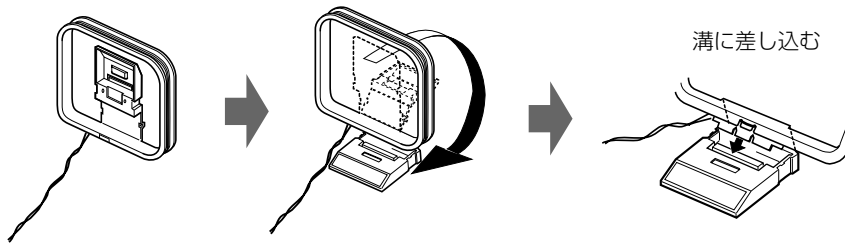
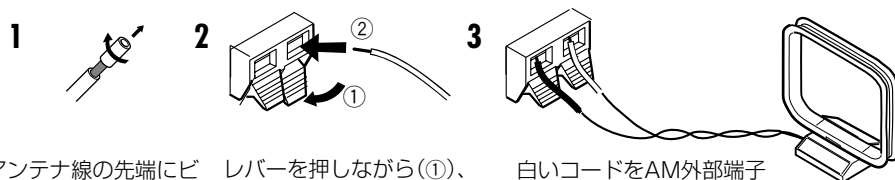
接　続 ―接続が終わるまで電源は入れないでください。―

接続上のご注意

- すべての接続が終わってから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
- 各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因となります。

アンテナの接続

FM/AM放送を聞くためにアンテナを接続します。アンテナを接続しないと、ラジオ放送を聞くことができません。

AMループアンテナ(付属品)の接続

アンテナ線の先端にビニールがついているときは、ねじりながら抜き取ります。

レバーを押しながら(①)、アンテナ線を差し込みます(②)。

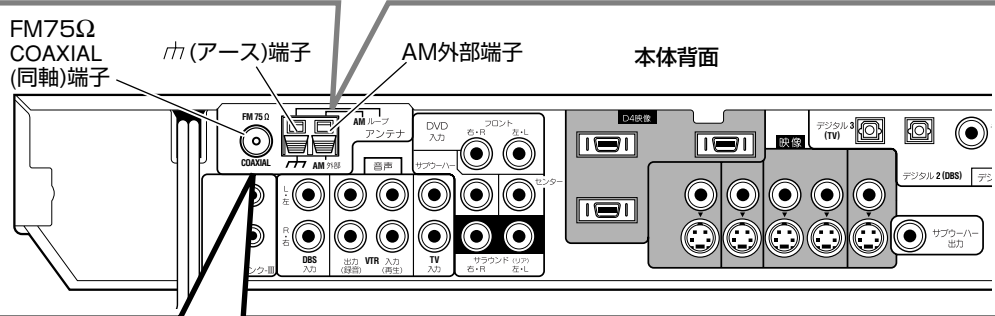
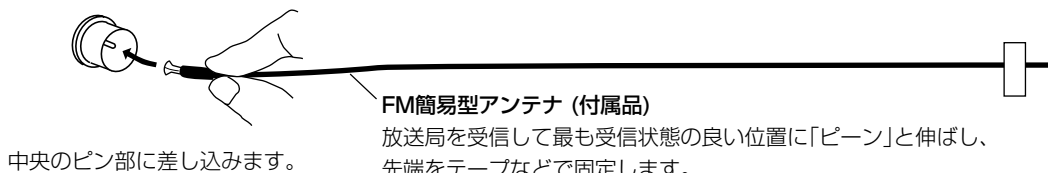
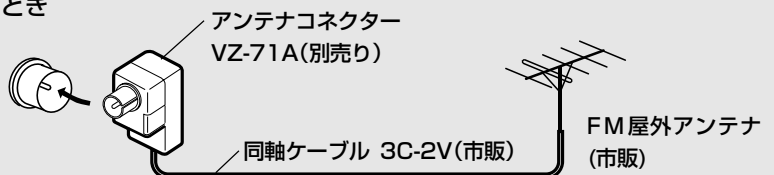
白いコードをAM外部端子と、黒いコードを⏚(アース)端子に接続してください。

AMループアンテナ(付属品)を本体からできるだけ離し、左右に回して最も良く受信できる所に置きます。
束ねてある線はよく伸ばして使ってください。

■付属のAMループアンテナではうまく受信できないとき
市販のケーブル(電線)をAM外部端子(右側)に接続します。AMループアンテナも一緒に接続しておいてください。
窓際や屋外になるべく高く水平に張ると効果的です。

FM簡易型アンテナ(付属品)の接続

中央のピン部に差し込みます。

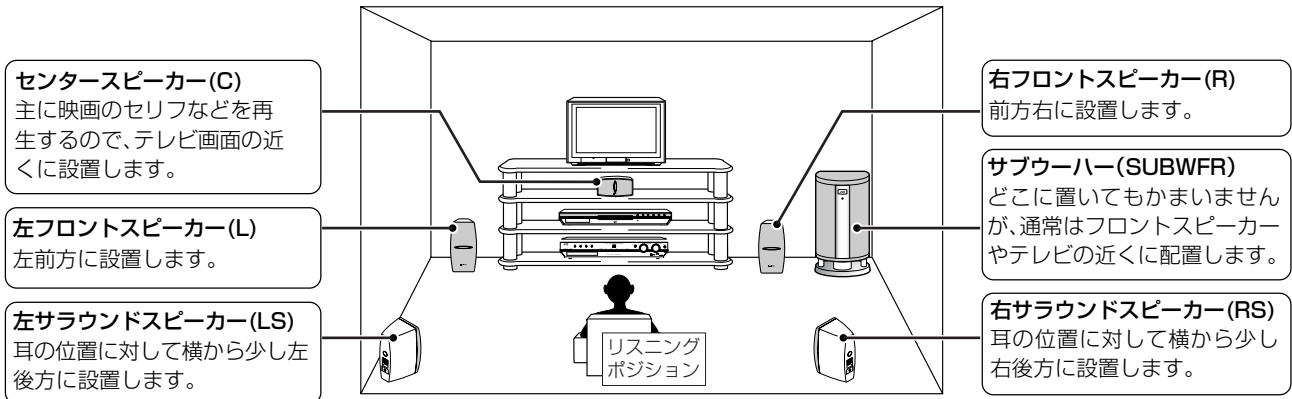
FM簡易型アンテナ (付属品)
放送局を受信して最も受信状態の良い位置に「ピーン」と伸ばし、先端をテープなどで固定します。

■付属のFM簡易型アンテナではうまく受信できないとき
■マンションなどの壁の共聴アンテナ端子を使うとき
右図のように接続します。
- 市販のFM屋外アンテナを接続するときは、市販の同軸ケーブルとアンテナコネクター(別売り)を準備してお使いください。

スピーカーを接続する

■接続するスピーカーについて

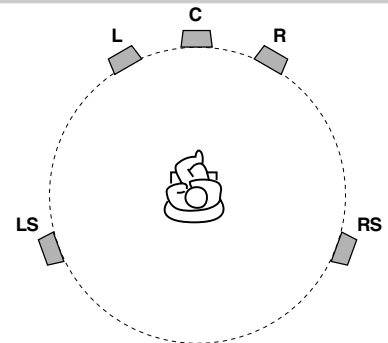
本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは6Ω～16Ωです。
DVDソフトでドルビーデジタルやDTSを楽しんだり、ホールやパビリオンなどの残響効果を楽しむにはスピーカーとの相性も重要になります。フロント、センター、サラウンドの各スピーカーは、特性の揃った同一のスピーカーを使うことが理想的です。

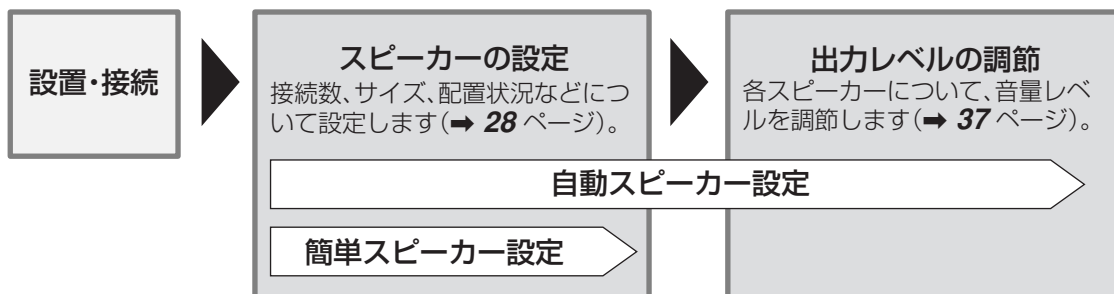
■スピーカーの配置について

スピーカーを配置するには、下の配置例を参考に実際にお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。
部屋の間取りなどで理想的な配置がむずかしいときでも、スピーカーの設定を適切に行って音場の調節をすることができます。

理想的なスピーカー配置例（5.1ch配置のとき）

設置のポイント

- リスニングポジションを中心とした同一円周上に各スピーカーを配置するようにします。
- センタースピーカー、フロントスピーカー、サラウンドスピーカーからの音には指向性*があります。スピーカーはリスニングポジションに向けて設置します。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音と比べて、指向性は強くありません。

　* **指向性とは…**
　スピーカーは、一般にその正面で最も音がよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。指向性が強いスピーカーほど、効果的に音の聞こえる範囲が狭くなります。

■スピーカーの設置・接続のあとで

スピーカーの設置・接続のあとは、下図のような流れに従って、スピーカーの設定や出力レベルを調節します。
本機では、このような設定や調節を、**自動スピーカー設定**や**簡単スピーカー設定**を使って行うこともできます。

自動スピーカー設定と**簡単スピーカー設定**について詳しくは「スピーカーの設定をする」（➡ ***28*** ページ）をご覧ください。

お知らせ

- **自動スピーカー設定は接続している機器によって発生するノイズのため適切に働かないことがあります。自動スピーカー設定を使うときは、本体に機器を接続する前におこなうか、接続しているすべての機器（テレビ、DVDプレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー、サブウーハーなど）の電源コードを抜いておくことをおすすめします。接続機器のコードは、自動スピーカー設定のあとで接続してください。**

■フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの接続

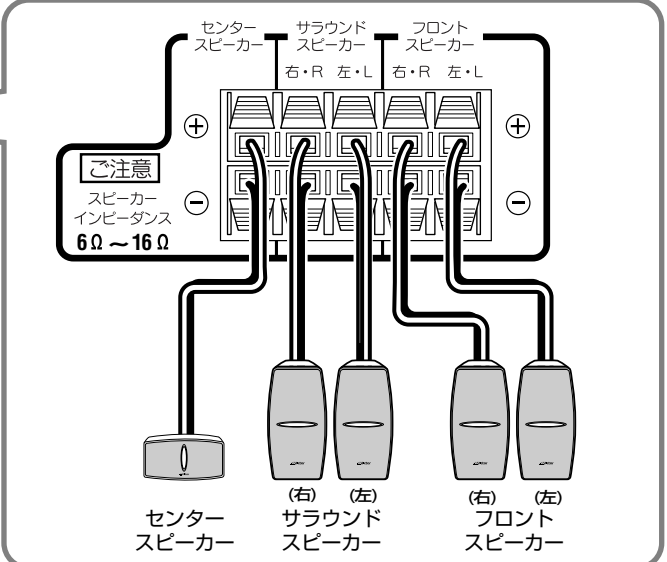
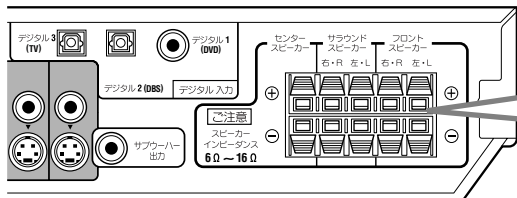
フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーを**本体背面**のスピーカー端子に接続します。
スピーカーコードの長さは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。

スピーカーの左右と極性(＋と－)を間違えないように正しく接続してください。

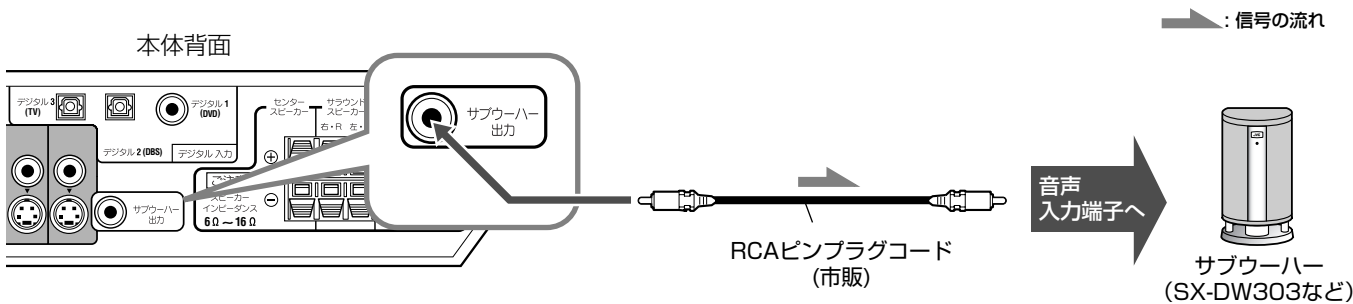
ご注意

- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。** 事故や故障の原因となります。
- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁形スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

お知らせ

- スピーカーコードの極性(＋、－)を間違えると、ステレオ感や音質がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いてしっかり接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。

■アンプ内蔵サブウーハーの接続

本機にアンプ内蔵サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音をお楽しみいただけます。
特に、ドルビーデジタル5.1ch、DTS5.1chなどのマルチチャンネルソフトを再生したときは、LFE(Low Frequency Effect)信号が再生され、映画館のような重低音が楽しめます。
アンプ内蔵サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグコード(市販)でサブウーハー出力端子に接続します。

- 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーを接続する

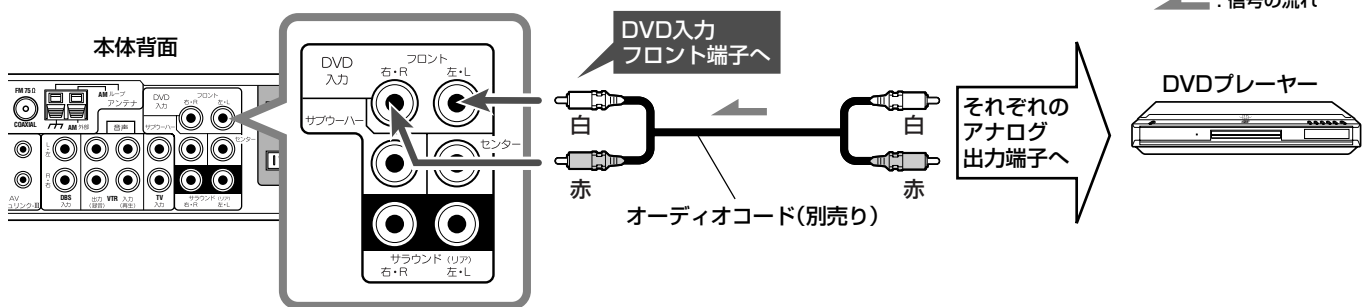
本機とDVDプレーヤーを接続します。DVDプレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。

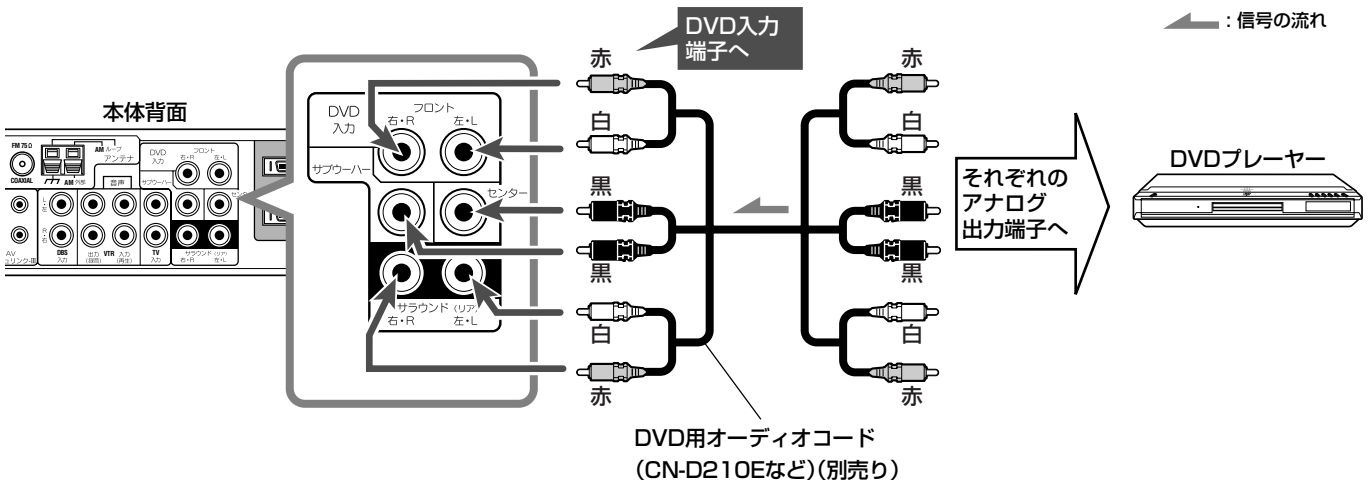
音声の接続

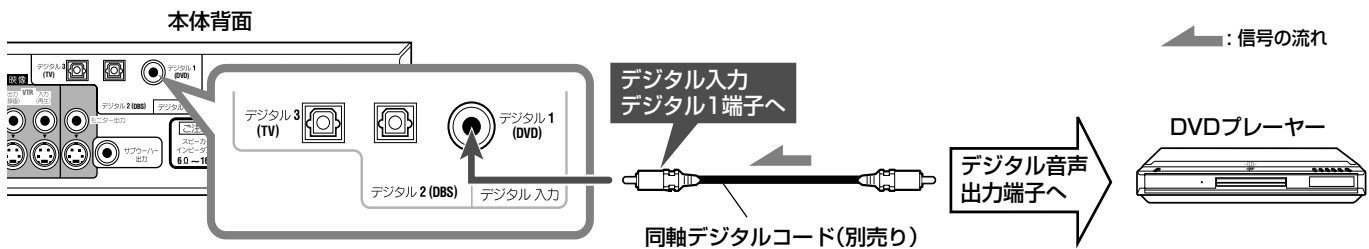
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。
より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をおすすめします。

■アナログ接続

別売りのオーディオコード(CN-510Eなど)を使って接続します。
アナログ2チャンネル接続または5.1チャンネル接続をすることができます。

<アナログ2チャンネル接続>

<アナログ5.1チャンネル接続>

「DVD MULTI」をソースに選びます。
詳しくは「アナログマルチチャンネルを使う」(➡ ***43*** ページ)をご覧ください。

■デジタル接続

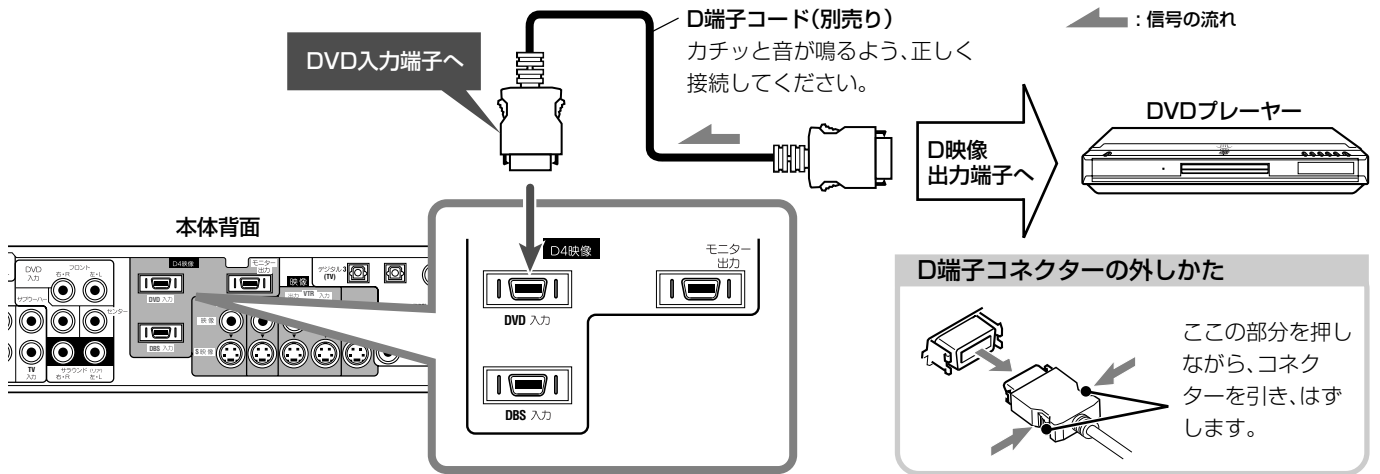
別売りの同軸デジタルコード(CN-D110Eなど)を使って接続します。

• DVDプレーヤーを**デジタル 2(DBS)**端子や**デジタル 3(TV)**端子に接続するときは、端子に割り当てられた機器名を「DVD」に変更します(➡ ***34*** ページ)。

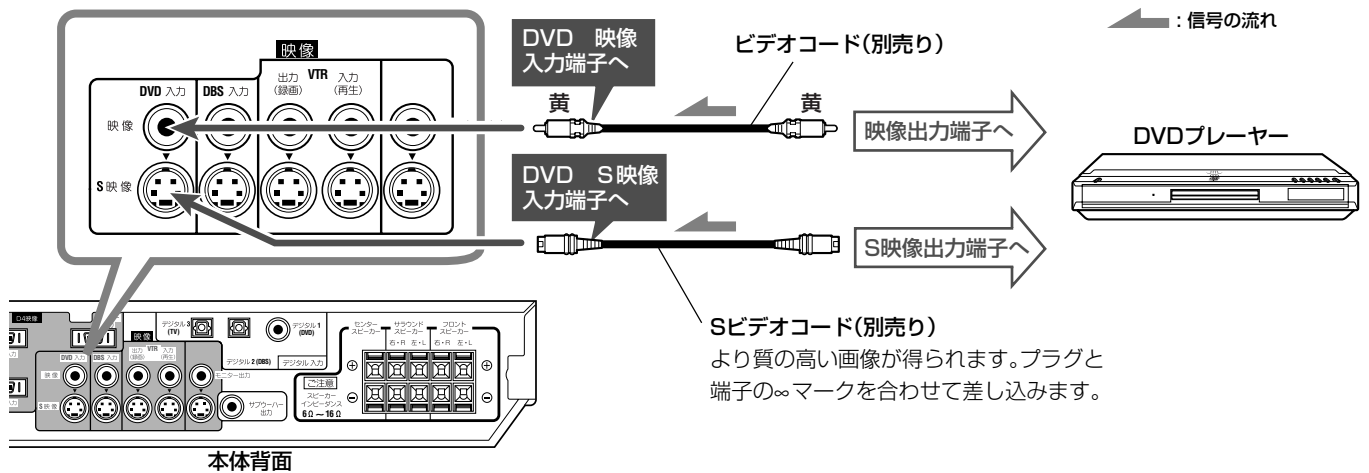
映像の接続

D映像端子、S映像端子、映像端子の3種の端子から選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します(➡ ***36*** ページ)。

■D映像端子付のDVDプレーヤーとの接続

別売りのD端子コードを使って接続します。

- コンポーネント映像端子付のDVDプレーヤーとの接続には、別売りのD端子コード(VX-DS110など)をお使いください。

■映像入力またはS映像入力端子付のDVDプレーヤーとの接続

別売りのビデオコード(VX-110E など)または別売りのSビデオコード(VC-S110Eなど)を使って接続します。

映像接続について

本機にはD映像端子、S映像端子、映像端子の3種の端子があります。以下の順でより高い画質をお楽しみいただけます。

D映像端子: 扱う映像信号はコンポーネント映像信号(色差信号とも言われ、映像信号を2種の色信号と輝度信号に分離した信号)と同じですが、信号フォーマットや縦横比などの情報も送れるのが特長です。

S映像端子: 映像信号を輝度信号(Y)と色信号(C)に分離した信号を扱います。

映像端子: 従来の映像信号を扱います。

D映像端子の種類について

本機のD映像端子はD4信号まで対応します。本機には、D1～D4映像入力を持つDVDプレーヤーやテレビなどを接続できます。D映像端子の種類と対応信号の関係は下表のようになっています。

数字の後のアルファベット「p」はプログレッシブ信号を、「i」はインターレース信号を意味します。

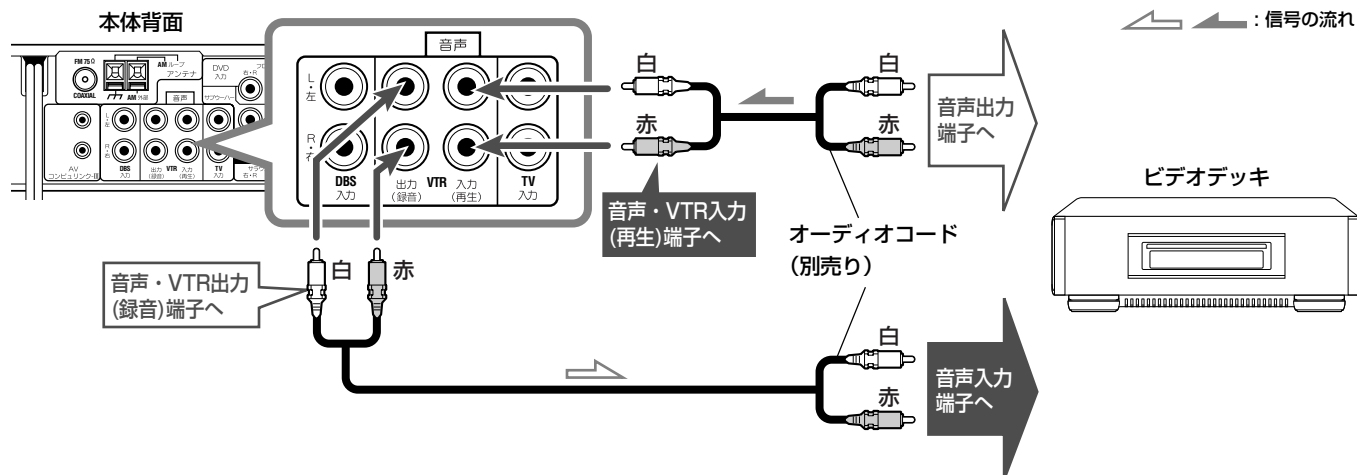
端子の種類	対応する映像信号フォーマット			
	1125i	750p	525p	525i
D4	○	○	○	○
D3	○	―	○	○
D2	―	―	○	○
D1	―	―	―	○

接　続（つづき）— 接続が終わるまで電源は入れないでください。—

ビデオデッキを接続する

本機とビデオデッキを接続します。ビデオデッキの取扱説明書も併せてご覧ください。

音声の接続

別売りのオーディオコード(CN-510Eなど)を使って接続します。

映像の接続

S映像端子、映像端子から選んで接続します。

Sビデオコード(VC-S110Eなど)(別売り)
より質の高い画像が得られます。プラグと
端子の∞マークを合わせて差し込みます。

BS/CSチューナーを接続する

本機とBS/CSチューナーを接続します。BS/CSチューナーの取扱説明書も併せてご覧ください。

音声の接続

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。
より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をおすすめします。
デジタル接続は、別売りの光デジタルケーブル(XN-110SAなど)を使って接続します。
アナログ接続は、別売りのオーディオコード(CN-510E など)を使って接続します。

• BS/CSチューナーを**デジタル 1**(DVD)端子や**デジタル 3**(TV)端子に接続するときは、端子に割り当てられた機器名を「DBS」に変更します(➡ ***34*** ページ)。

映像の接続

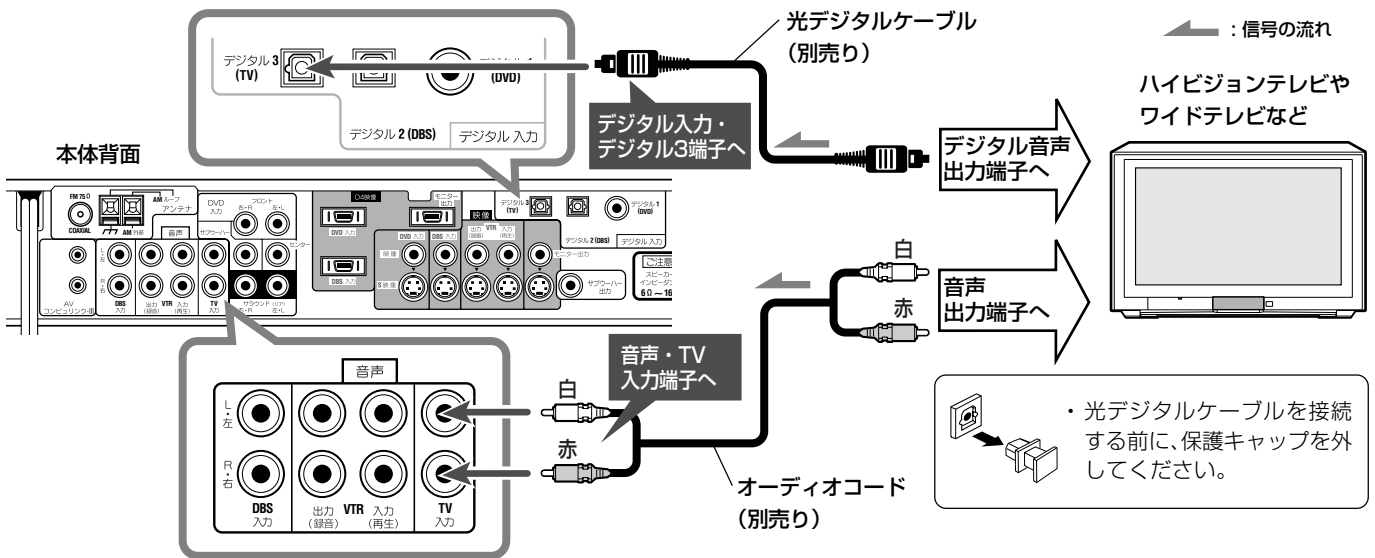
D映像端子、S映像端子、映像端子の3種の端子から選んで接続します。接続のあとで、映像接続の種類を設定します(➡ ***36*** ページ)。
ビデオデッキで録画をするときは、S映像端子または映像端子の接続も必要です。

接　続（つづき）— 接続が終わるまで電源は入れないでください。—

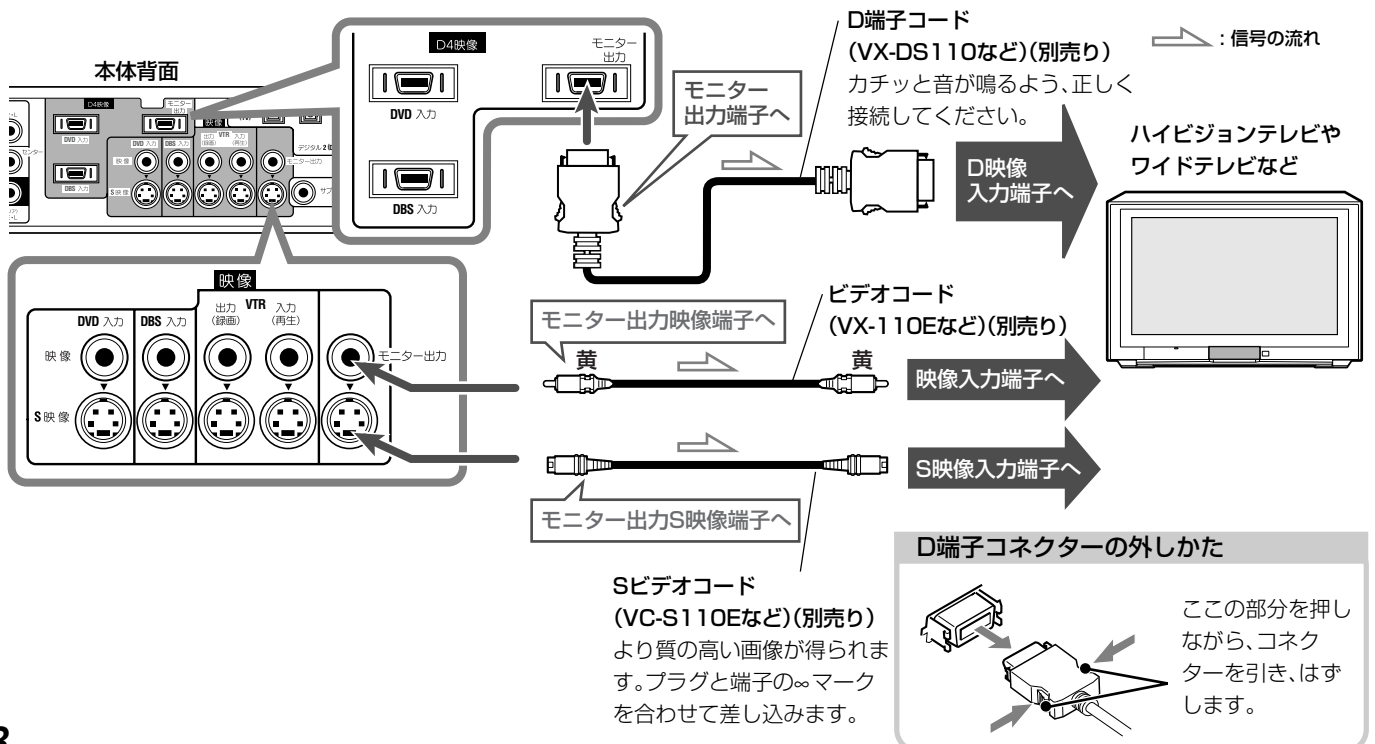
テレビを接続する

本機とテレビを接続します。テレビの取扱説明書も併せてご覧ください。

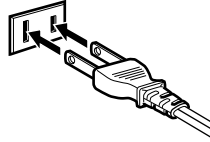
音声の接続

テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聞くための接続です。
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。
より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をおすすめします。
デジタル接続は、別売りの光デジタルケーブル（XN-110SAなど）を使って接続します。
アナログ接続は、別売りのオーディオコード（CN-510Eなど）を使って接続します。

• テレビを**デジタル 1(DVD)**端子や**デジタル 2(DBS)**端子に接続するときは、端子に割り当てられた機器名を「TV」に変更します（➡ ***34*** ページ）。

映像の接続

本機に接続したビデオ機器（DVDプレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー）の映像を、テレビで見るための接続です。
D映像端子、S映像端子、映像端子の3種の接続をすることができます。
本機とビデオ機器の映像接続で使用している端子と同じ種類の端子を使って接続してください。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。

電源コードを接続すると、本体のSTANDBY（スタンバイ）ランプが点灯します。

ご注意

- 電源コードはテレビやビデオデッキ、アンテナ線などから離してください。接近していると雑音が発生したり、映像が乱れたりすることがあります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

お知らせ

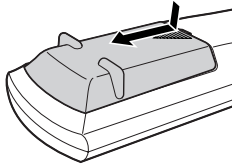
記憶させた放送局や操作の設定、サラウンド効果などの設定は、次のような場合に消去されることがあります。そのようなときは、もう一度設定し直してください。

- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

リモコンを準備する

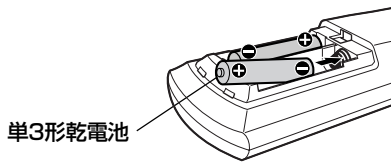
単3形の乾電池を2本入れます。**電池の極性（⊕、⊖）を間違えないように入れてください。**

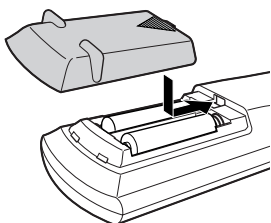
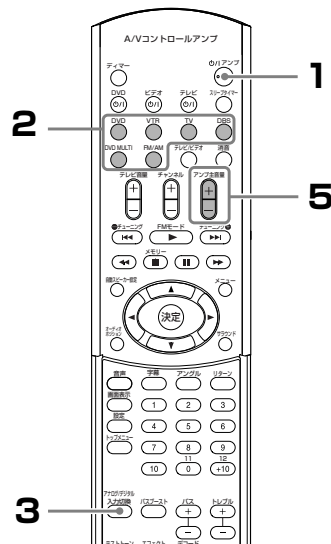
1. 裏ブタをはずす

矢印の方向にスライドさせます。

2. 単3形乾電池を2本入れる

リモコン内部の表示に極性を合わせ、⊕ ⊖ を正しく入れてください。

3. 裏ブタをしめる

矢印の方向に戻します。

お知らせ

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できないことがあります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗してきています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早目に新しい単3形乾電池と交換してください。
- 充電式電池などは使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

ふだんの使いかた

リモコンから

1 ⏻/I アンプボタンを押して本機の電源を入れる

押すごとに電源が「入」⟺「切」します。

本体のSTANDBY(スタンバイ)ランプが消灯します。
電源を切る前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、表示窓に表示されます。

例:最後にDVD MULTIを選んでいたとき

ANALOG L C R SUBWFR LFE LS RS DVD MULTI VOL 20

2 ソース機器選択ボタンを押して再生するソースを選ぶ

選んだソース名が表示されます。

例:DVDを選んだとき

ANALOG SUBWFR DVD VOL 20

3 アナログ/デジタル入力切換ボタンを押して音声入力(デジタル/アナログ)を切り換える

選んだ音声入力が表示窓に表示されます。

例:デジタル入力を選んだとき

SUBWFR DVD DIGITAL VOL 20

- 音声入力でデジタルを選択すると、表示窓のソース名に「DIGITAL」と表示されます。
- DVD、DBS、TVをアナログ・デジタルの両方で接続しているとき、リモコンで音声入力(デジタル/アナログ)を切り換えることができます。詳しくは「ソースの音声入力を切り換える」(➡ ***23*** ページ)をご覧ください。

4 外部接続したAV機器を再生する

外部機器を操作するときは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

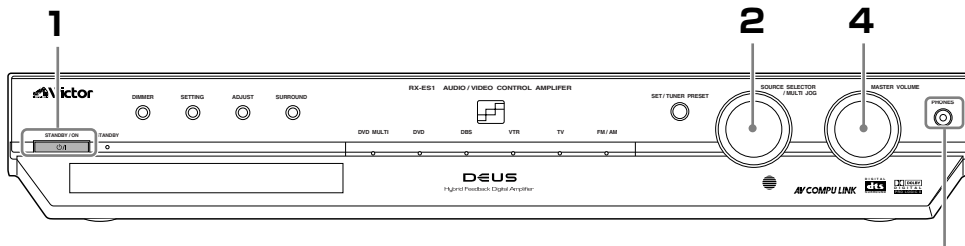
5 アンプ主音量(+/ー)ボタンを押して音量を調節する

音量レベルは、0(消音)〜50までの範囲で調節できます。

電源を切るには

⏻/I アンプボタンを押します。
本体のSTANDBY(スタンバイ)ランプが点灯します。

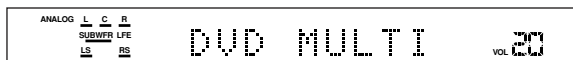
ご注意

- 次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。
  ー本機の電源を「入」⟺「切」するとき
  ーヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするとき

本体から

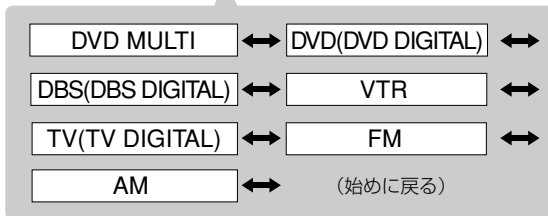
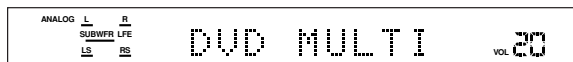
1 ⏻/I STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を入れる

押すごとに電源が「入」⟷「切」します。

STANDBYランプが消灯します。
電源を切る前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、表示窓に表示されます。

例：最後にDVD MULTIを選んでいたとき

2 SOURCE SELECTOR/MULTI JOGつまみを回して再生するソースを選ぶ

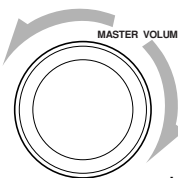
回すごとにソース名が切り換わります。

DVD MULTI ⟷ DVD(DVD DIGITAL) ⟷
DBS(DBS DIGITAL) ⟷ VTR ⟷
TV(TV DIGITAL) ⟷ FM ⟷
AM ⟷ （始めに戻る）

- 音声入力でデジタルを選んでいるときは、表示窓のソース名に「DIGITAL」と表示されます。

3 外部接続したAV機器を再生する

外部機器を操作するときは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

4 MASTER VOLUMEつまみを回して音量を調節する

音量レベルは、0（消音）～50までの範囲で調節できます。

電源を切るには

⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。
STANDBYランプが点灯します。

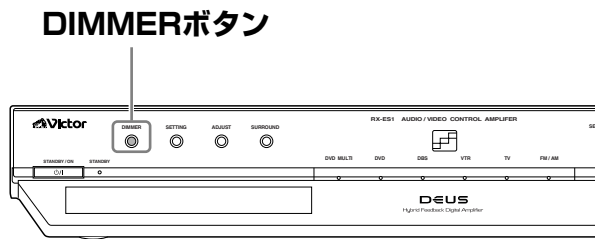
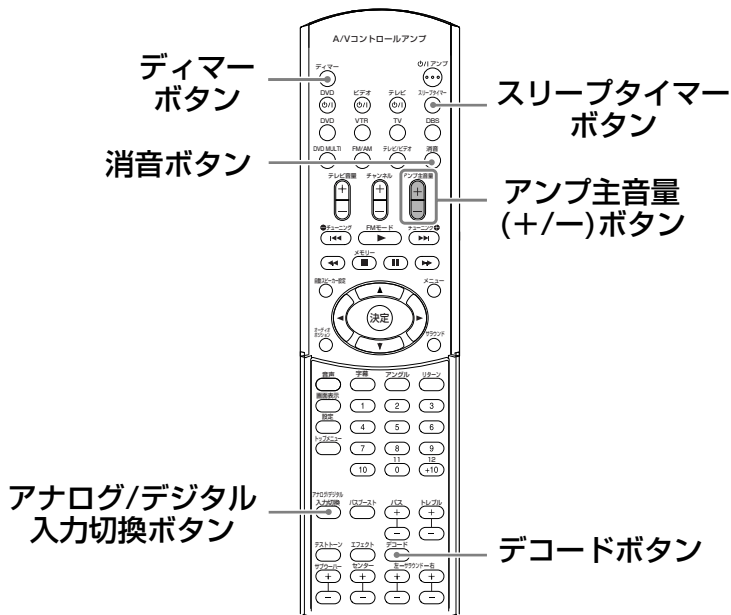
ヘッドホンで楽しむ

本体PHONES端子にヘッドホンを差し込むと自動的にヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出力されなくなります。
表示窓に「HEADPHONE」が表示されHPが点灯します。

- サラウンドをお使いのときは、サラウンドはキャンセルされます。また、マルチチャンネルソースをお楽しみの場合には、フロントスピーカーチャンネル以外の音声信号はアナログ2チャンネル信号へと自動的にダウンミックスされ、左右のヘッドホンに振り分けられて再生されます。

ご注意

- 次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりすることがあります。
  ー本機の電源を「入」⟷「切」するとき
  ーヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするとき

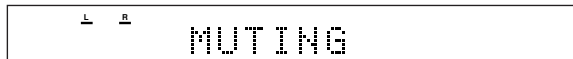
便利な機能

一時的に音を消す(消音)

電話がかかってきたときなど、音を一時的に消すときに便利です。

消音

消音ボタンを押します。

表示窓のボリューム表示が消えて「MUTING(ミューティング)」と表示されます。
スピーカーとヘッドホンからの音が出なくなります。

L R MUTING

もとの音量に戻すには

アンプ主音量(+/−)ボタンを押すか、もう一度消音ボタンを押します。

表示窓の明るさを変える(ディマー)

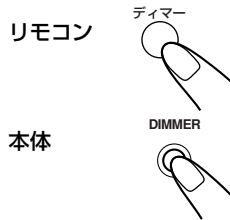
映画ソフトなどをご覧になるときなど、表示窓の明るさを変えたいときに使います。

ディマーボタンまたは本体のDIMMERボタンを押します。

リモコン

ディマー

本体

DIMMER

・ ボタンを押すごとに、表示窓の明るさが4段階に変化します。

ふだんの明るさ → やや暗い → 暗い → 消灯

・ 本体のイルミネーションランプは明るさが3段階に変化します。

ふだんの明るさ → 暗い → 暗い → 消灯

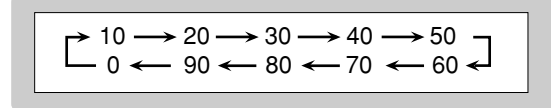
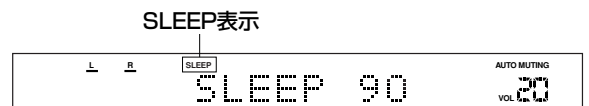
おやすみタイマーを使う(スリープタイマー)

おやすみタイマーを使うと、設定した時間に本機の電源が自動的に「**切**」になります。

スリープタイマーボタンを押して電源が「**切**」になるまでの時間を設定します。

ボタンを押すごとに、設定時間(分)が次のように切り換わります。
おやすみタイマーの動作中は、SLEEP表示が点灯します。

例:おやすみタイマーを90分にするとき

SLEEP表示

設定した時間が経過すると、自動的に電源が「**切**」になります。

電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変えるには

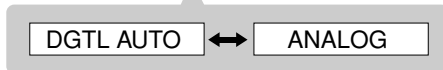
おやすみタイマーを設定後に**スリープタイマー**ボタンを1回押すと、電源が「**切**」になるまでの時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、**スリープタイマー**ボタンをくり返し押して希望の時間を選びます。

おやすみタイマーを解除するには

スリープタイマーボタンをくり返し押して「**0**」を表示させます。おやすみタイマーが解除され、SLEEP表示は消灯します。
電源を「切」にしたときも、おやすみタイマーは解除されます。

ソースの音声入力を切り換える

DVD、DBS、TVをアナログ･デジタルの両方で接続しているときは、音声入力(デジタル/アナログ)を切り換えることができます。

アナログ/デジタル入力切換ボタンを押します。
ボタンを押すごとに次のように入力が切り換わります。

DGTL AUTO ⟷ ANALOG

DGTL(Digital) AUTO	：デジタル音声を聞くときに選びます。下記の「DGTL AUTOについて」を参照してください。
ANALOG	：アナログ音声を聞くときに選びます。ANALOG表示が点灯します。

DGTL AUTOについて

入力されたデジタル信号フォーマットを自動判別して、切り換わります。
本機で表示されるデジタル信号フォーマットは次の4つです。

- LPCM ：CDなどの通常のオーディオ2チャンネル信号(リニアPCM)のとき点灯します。
- DOLBY D ：入力された信号がドルビーデジタル対応信号のとき点灯します。
- DTS ：入力された信号がDTSデジタルサラウンド対応信号のとき点灯します。
- AAC ：入力された信号がMPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

- デジタル入力端子に割り当てられているソース名が接続した機器名と合わないときは、デジタル入力に切り換えることはできません。接続した機器名を正しくデジタル入力端子に割り当ててください。詳しくは「デジタル入力端子に接続した機器名を設定する(DIGITAL IN)」(➡ ***34*** ページ)をご覧ください。

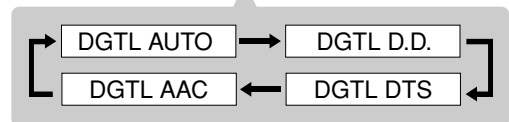
デジタル入力信号フォーマットを切り換える

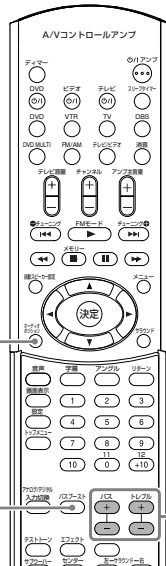
アナログ/デジタル入力切り換えで「DGTL AUTO」を選んでいるときに、デジタル信号が正しく判別できないことがあります。このようなときは、手動でデジタル入力信号フォーマットを切り換えることができます。

1 アナログ/デジタル入力切換ボタンを押して「DGTL AUTO」を選ぶ

2 デコードボタンを押す

ボタンを押すごとに、デジタル信号フォーマットが次のように切り換わります。

DGTL AUTO → DGTL D.D. → DGTL DTS → DGTL AAC → (DGTL AUTO)

DGTL AUTO	：デジタル信号を自動判別するときに選びます
DGTL D.D.	：ドルビーデジタル対応信号を聞きたいときに選びます。**DOLBY D**表示が点灯します。
DGTL DTS	：DTSデジタルサラウンド対応信号を聞きたいときに選びます。**DTS**表示が点灯します。
DGTL AAC	：MPEG-2 AAC対応信号を聞きたいときに選びます。**AAC**表示が点灯します。

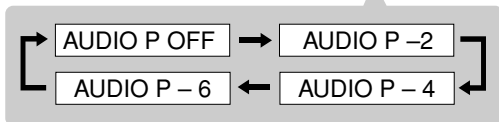
- デジタル信号フォーマットは、電源を切ったり、ソース機器選択ボタンで別の入力機器を選んだときは、「DGTL AUTO」に戻ります。

バス(+/–)ボタン
トレブル(+/–)ボタン

オーディオポジションを切り換える

ステレオ音声の再生中にサブウーハーの音量が他のスピーカーに比べて大きいときは、サブウーハーの出力レベルを調節してお使いください。

・ 出力レベルはソースごとに設定できます。

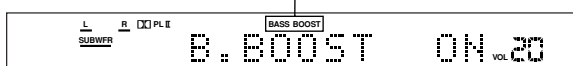
オーディオポジションボタンを押します。
ボタンを押すごとに次のようにサブウーハーの出力レベルが切り換わります。
−2(dB)単位で減衰し、最大で−6(dB)まで設定することができます。

A.POSITION表示

• この設定はサラウンドモードでは働きません。

低音を強調する(バスブースト)

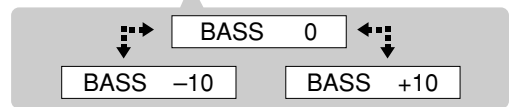
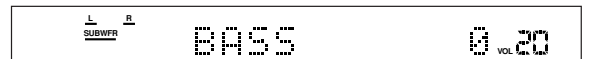
フロントスピーカーの低音を強調することができます。

バスブーストボタンを押します。
ボタンを押すごとに次のように入力が切り換わります。

BASS BOOST表示

ON	：低音を4dB増幅します。BASS BOOST表示が点灯します。
OFF	：通常の設定値で再生します。

本体でも同じ設定をすることができます。詳しくは「低音を強調する(バスブースト)」(➡ ***38*** ページ)をご覧ください。

音質の調節(BASS、TREBLE)

フロントスピーカーの高音と低音をお好みに合わせて調節します。
+または−を押すごとに2(dB)単位で増幅または減衰し、
「−10」〜「+10」の範囲で調節できます。

バス(+/−)	：低音を調節するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]
トレブル(+/−)	：高音を調節するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]

本体でも同じ設定をすることができます。詳しくは「音質の調節(バス、トレブル)」(➡ ***37*** ページ)をご覧ください。

その他の機能について

設定を記憶させる

本機は、次のような操作をしたとき、自動的にソース(音源)ごとの設定を記憶します。

・ 本機の電源を切ったとき
・ 本機のソースを切り換えたとき

また、ソースごとの設定は、最後に操作した状態を常に記憶し、再び同じソースを選んだときにその設定が呼び出されます。

ソースごとに次の内容が記憶されます(FMとAMで別の設定が記憶されます)。

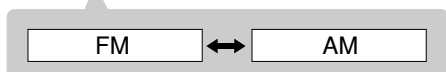
· アナログ/デジタル入力の設定
· 音質の設定(BASS 、TREBLE)
· フロントスピーカーの左右のバランス
· バスブースト
· アナログ入力信号調節(INPUT ATT)
· サブウーハーの出力レベル、オーディオポジション
· サラウンドモード

ラジオ(FM放送/AM放送)を聞く

選局する

リモコンから

1 **FM/AMボタンを押してFM放送またはAM放送を選ぶ**

FM/AMボタン押すごとに、FM放送とAM放送が交互に切り換わります。

- 最後に選ばれた周波数が表示されます。

例：FM放送を選んだとき

2 **チューニング⊕ボタンまたはチューニング⊖ボタンを押して聞きたい放送局を選ぶ**

- 「ポン・ポン」と押す(**マニュアル選局**)とFM放送の周波数は0.05MHz(50kHz)ずつ、AM放送の周波数は9kHzずつ変わります。

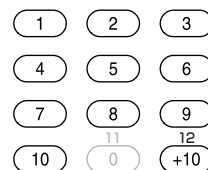
FM放送	
0.05MHzずつ	：76.00MHz～108.00MHz

AM放送	
9kHzずつ	：531kHz～1629kHz

- 押し続ける(**オート選局**)と表示窓の周波数表示が変わりだします。変わりだしてから指を離すと、放送局を受信したときに自動で周波数が停止します。

放送局を記憶させてあるときは、プリセット番号を選んで放送局を選ぶ(**プリセット選局**)ことができます。

- 放送局の記憶の手順は、「放送局を記憶させる」(➡ ***26*** ページ)をご覧ください。

数字ボタン(1～10、+10)を押してプリセット番号を選びます。

例） プリセット番号「5」を選ぶ
：(5)を押します。
プリセット番号「15」を選ぶ
：(+10)➡(5)と押します。
プリセット番号「20」を選ぶ
：(+10)➡(10)と押します。
プリセット番号「30」を選ぶ
：(+10)➡(+10)➡(10)と押します。

次ページに続く

選局する(つづき)

本体から

1 **SOURCE SELECTORつまみを回してFM放送またはAM放送を選ぶ**

「FM」または「AM」を表示させます。

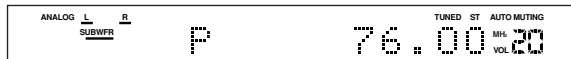
- 最後に選ばれた周波数が表示されます。

ANALOG L R SUBWFR FM 76.00 TUNED ST AUTO MUTING MHz VOL 20

例:FM放送を選んだとき

2 **TUNER PRESETボタンを押す**

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

ANALOG L R SUBWFR P 76.00 TUNED ST AUTO MUTING MHz VOL 20

- 5秒間何もしないと設定前の表示に戻ります。

3 **MULTI JOGつまみを回して聞きたい放送局を選ぶ**

プリセット番号を選びます(**プリセット選局**)。

ANALOG L R SUBWFR P 1 76.00 TUNED ST AUTO MUTING MHz VOL 20

- 放送局の記憶の手順は、右欄の「放送局を記憶させる」をご覧ください。

受信表示について

放送を受信するとTUNED(チューンド)表示が点灯します。FMステレオ放送を受信するとST表示も点灯します。

TUNED表示とST表示

ANALOG L R FM 80.00 TUNED ST AUTO MUTING MHz VOL 20

放送局を記憶させる

一度放送局を記憶させておくと、次からは簡単に放送局を選ぶことができます。
FM放送を30局、AM放送を15局まで記憶させることができます。

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**2**からやり直してください。

リモコンのみ

1 **記憶させたい放送局を選ぶ**

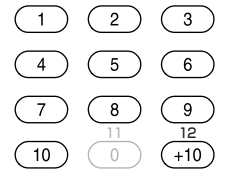
FM放送局を記憶させるときには、FM受信モード(➡ *27*ページ)も同時に記憶させることができます。

2 **メモリーボタンを押す**

プリセット番号の表示位置「_ _」が約5秒間点滅します。

点滅

3 **「__ __」が点滅中に数字ボタン(1～10、+10)でプリセット番号を選ぶ**

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 0(11) +10(12)

数字ボタンを押します。

例) プリセット番号「5」を選ぶ
:(5)を押します。
プリセット番号「15」を選ぶ
:(+10)➡(5)と押します。
プリセット番号「20」を選ぶ
:(+10)➡(10)と押します。
プリセット番号「30」を選ぶ
:(+10)➡(+10)➡(10)と押します。

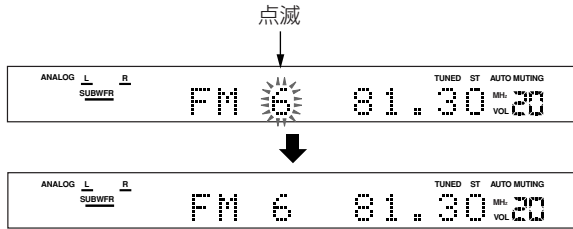
プリセット番号を選ぶと、選んだ番号が点滅します。

例:プリセット番号6を選んだとき

点滅

次ページに続く

4 プリセット番号が点滅中にもう一度メモリーボタンを押す

プリセット番号が点灯に変わります。

5 手順1～4をくり返して他の放送局も記憶させる

記憶させた放送局を削除するには

同じプリセット番号に新しい放送局を記憶させると、前の放送局の記憶は消えます。

FM受信モードを設定する(FMモード)

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときは、FM受信モードを変更してください。

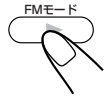
- FM受信モードは放送局ごとに記憶させることができます。

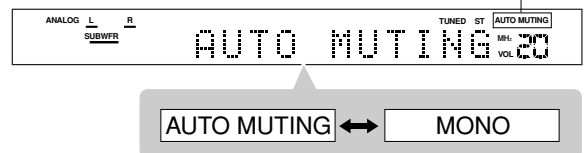
リモコンのみ

1 FM放送を受信する

2 お好みの放送局を選ぶ

放送局の選びかたは、「選局する」(➡ *25*、*26* ページ)をご覧ください。

3 FMモードボタンを押す

FMモードボタンを押すごとに、FM受信モードが次のように切り換わります。

AUTO MUTING表示

AUTO MUTING ⟷ MONO

AUTO MUTING（オート ミューティング）	：通常はこれを選びます。ステレオ放送のときはステレオで、モノラル放送のときはモノラルで聞こえます。このモードにすると選局中の「サー」という雑音を消すことができます。AUTO MUTING表示が点灯します。 [お買い上げ時の設定]
MONO（モノ）	：FMステレオ放送が雑音で聞きにくいときに選びます。音声がモノラルになります。AUTO MUTING表示が消灯します。

ステレオ音声に戻すには

手順**3**で、「AUTO MUTING」を選びます。

ふだんの使いかた

スピーカーの設定をする

スピーカーの設定について

■スピーカーの設定項目について

接続したスピーカーの情報(有無、サイズ、設置数など)を本機に設定することで、ドルビーデジタルやDTSの5.1チャンネルサラウンド(➡ ***39*** ページ)などの再生に最適な音場を再現することができます。

スピーカーの設定には次の3項目があります。( )内は本体表示窓に表示される設定項目名です。

項目	説明
サブウーハーの設定 (SUBWFR)	サブウーハーを使用するかどうかを設定します。
スピーカーのサイズ設定 (FRNT SP、CNTR SP、SURR SP)	フロントスピーカー(FRNT SP)、センタースピーカー(CNTR SP)、サラウンドスピーカー(SURR SP)について、使用するかどうかまたはユニットの口径を設定します。
スピーカーの遅延設定 (FRNT DL、CNTR DL、SURR DL)	各スピーカーをリスニングポジションから等距離に配置できないときに使う設定です。理想的配置に近づけるための出力タイミングの遅れを設定します。

■スピーカーの設定方法について

本機では、**自動スピーカー設定**と**簡単スピーカー設定**(QUICK SETUP(クイック セットアップ))を使って、スピーカー設定を簡単に行うことができます。また、項目ごとに設定を変更したり、より詳細な設定をしたいときは、詳細なスピーカー設定(➡ ***32*** ページ)で行うこともできます。

- **自動スピーカー設定**　：拍手一つで各スピーカーの遅延設定*1と各スピーカーの出力レベル調節*2を行います。すべてのスピーカーを接続しているときにお使いください。
サブウーハーの設定やスピーカーのサイズ設定は、詳細なスピーカー設定(➡ ***32*** ページ)で行ってください。
- **簡単スピーカー設定**　：簡単な案内に従って、サブウーハーの設定、スピーカーのサイズ設定、各スピーカーの遅延設定*1を行います。

設定できる項目は次のようになります。

	スピーカー設定			出力レベル
	サブウーハーの設定	スピーカーのサイズ設定	スピーカーの遅延設定	スピーカーの出力レベル設定
自動スピーカー設定	−	−	○	○
簡単スピーカー設定	○	○	○	−

[*1]遅延設定とは…

各スピーカーからの音声がリスニングポジションに同時に到達するためには、各スピーカーを等距離に設置することが必要です。本機では、スピーカーを等距離に設置できないときでも、音声が同時に到達できるようにスピーカーからの音声出力のタイミングを遅らせることができます。

[*2]スピーカーの出力レベル調節とは…

サラウンドなど複数のスピーカーを使用するときは、各スピーカーからの音声をリスニングポジションで聞いたときに、同じ音量になることが理想的です。
本機では、各スピーカーごとに出力レベルを調節し、どのスピーカーからの音量も同じ大きさにそろえることができます。
詳しくは、「音量・音質の調節をする」(➡ ***37*** ページ)をご覧ください。

自動スピーカー設定

ふだん視聴する場所（リスニングポジション）で一度手を叩きます。本機では、接続されたスピーカーをマイクのように使ってその音を拾い、スピーカーの遅延設定と音声出力レベルを設定します。

- **より正確な設定をするために、本体に接続しているすべての機器（テレビ、DVDプレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー、サブウーハーなど）の電源を抜いてから設定を行ってください。**
- 設定は、全てのスピーカー（左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカー）を接続した状態で行ってください。センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを接続しない場合や、設定内容を変更したいときは簡単スピーカー設定（QUICK SETUP）（➡ ***30*** ページ）か詳細なスピーカー設定（➡ ***32*** ページ）を行ってください。
- 設定の前に各スピーカーの接続をご確認ください。

リモコンのみ

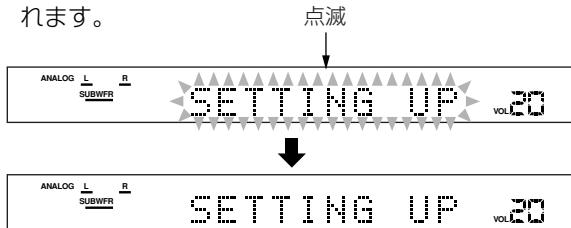
1 **ふだん視聴する場所（リスニングポジション）に座る**

2 **自動スピーカー設定ボタンを2秒以上押す**

自動スピーカー設定

表示窓に「SETTING UP（セッティング アップ）」が3秒間点滅後、点灯します。

- それまでの遅延設定と出力レベル設定はキャンセルされます。

点滅

- 点滅中にもう一度**自動スピーカー設定**ボタンを押すと設定の前に選んだソースの表示に戻ります。

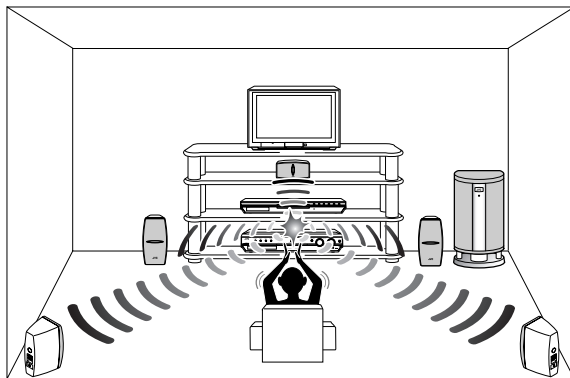
3 **「SETTING UP」点灯中に、リスニングポジションから一度手を叩く**

音が体で妨げられないように頭上で叩きます。

4 **メッセージを確認する**

右欄をご覧ください。

手を叩いた後に、次のいずれかのメッセージが表示されます。

SUCCESSFUL
SILENT
SILENT-ALL
FAILED

SUCCESSFUL（サクセスフル）	：各スピーカーに拍手の音が届き、設定に成功しました。各スピーカーの遅延と音声出力レベルの設定を自動で設定します。
SILENT（サイレント）	：フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーのいずれかに拍手の音が届いていません。
SILENT-ALL（サイレント オール）	：すべてのスピーカーに拍手の音が届いていません。
FAILED（フェイルド）	：フロントスピーカーあるいはサラウンドスピーカーの左右どちらかに拍手の音が届いていない、または左右のスピーカーまでの距離が極端に違います。

- 「SILENT」、「SILENT-ALL」または「FAILED」が表示された場合は：
  再度表示窓に「SETTING UP」と表示されます。このときは手順 **3** をもう一度行ってください。
- メッセージが3回続けて「SILENT-ALL」または「FAILED」だった場合は：
  「MANUAL」と表示されます。このときは簡単スピーカー設定（QUICK SETUP）（➡ ***30*** ページ）または詳細なスピーカー設定（➡ ***32*** ページ）を行ってください。
- 次の場合には遅延と音声出力レベルは自動的に設定されます。
  – メッセージが2回続けて「SILENT」だった場合。
  – 「SILENT-ALL」または「FAILED」のいずれかのメッセージが2回表示されたあと、3度目が「SILENT」だった場合。

- サブウーハーの設定は手動で行ってください。（➡ ***32*** ページ）
- リスニングルームの状況、スピーカーの種類、または拍手の強度によっては正しく設定されないことがあります。

スピーカーの設定をする(つづき)

簡単スピーカー設定(QUICK SETUP)

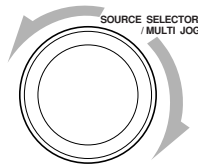
使用するスピーカーの数とお部屋の大きさを登録するだけでセンタースピーカーとサラウンドスピーカーの遅延が設定されます。
・ スピーカーの数やサイズを変更したときは設定し直してください。

本体のみ

1 SETTINGボタンを押す

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGつまみを回して「QUICK SETUP」を表示させる

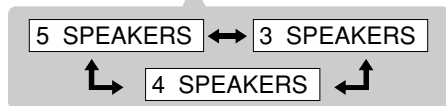
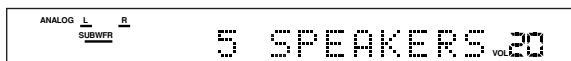
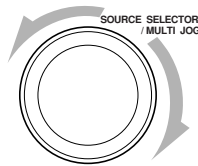
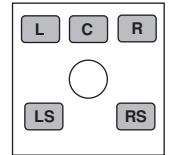
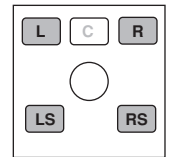
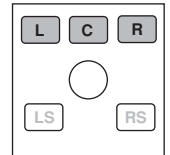
ANALOG L R SUBWFR QUICK SETUP VOL 20

3 SETボタンを押す

「ENTER THE NUMBER OF SPEAKERS」とスクロール表示されます。
スクロール表示後、設定表示に切り換わります。

ANALOG L R SUBWFR 5 SPEAKERS VOL 20

4 MULTI JOGつまみを回して使用するスピーカーの数を選ぶ

つまみを回すごとに次のようにスピーカーの数が切り換わります。

5 SPEAKERS ↔ 3 SPEAKERS
4 SPEAKERS

5 SPEAKERS
：すべてのスピーカーを使うときに選びます。

4 SPEAKERS
：センタースピーカー以外のスピーカーを使うときに選びます。

3 SPEAKERS
：サラウンドスピーカー以外のスピーカーを使うときに選びます。

・ サブウーハーの有無の設定は手順**6**で行います。

5 SETボタンを押す

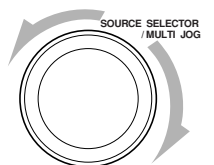
「ENTER USE OF SUBWOOFER」とスクロール表示されます。
スクロール表示後、設定表示に切り換わります。

ANALOG L R SUBWFR SUBWFR USE VOL 20

6 MULTI JOGつまみを回してサブウーハーの有無を選ぶ

つまみを回すごとに次のようにサブウーハーの有無が切り換わります。

ANALOG L R SUBWFR SUBWFR USE VOL 20

SUBWFR USE ↔ SUBWFR NO

SUBWFR USE
: サブウーハーを使用するときに選びます。

SUBWFR NO
: サブウーハーを接続していないとき、または使用しないときに選びます。

サブウーハーの有無を設定すると手順**4**で設定したスピーカーのサイズの設定は以下のようになります。

サブウーハー	スピーカー数	各スピーカーのサイズ		
		フロント	センター	サラウンド
SUBWFR USE	5 SPEAKERS	SMALL	SMALL	SMALL
SUBWFR NO	5 SPEAKERS	LARGE	SMALL	SMALL
SUBWFR USE	4 SPEAKERS	SMALL	無し	SMALL
SUBWFR NO	4 SPEAKERS	LARGE	無し	SMALL
SUBWFR USE	3 SPEAKERS	SMALL	SMALL	無し
SUBWFR NO	3 SPEAKERS	LARGE	SMALL	無し

・スピーカーのサイズの詳細は「スピーカーサイズの設定(FRNT SP、CNTR SP、SURR SP)」(➡ ***32*** ページ)をご覧ください。

7 SETボタンを押す

SET / TUNER PRESET

「ENTER ROOM SIZE」とスクロール表示されます。
スクロール表示後、設定表示に切り換わります。

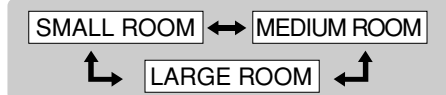
ANALOG L R SUBWFR SMALL ROOM VOL 20

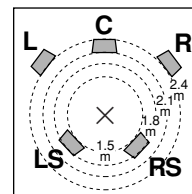
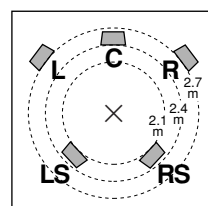
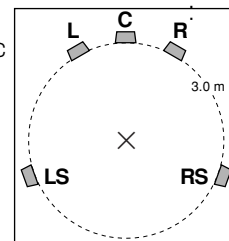
8 MULTI JOGつまみを回して部屋の広さを選ぶ

SOURCE SELECTOR / MULTI JOG

つまみを回すごとに次のように部屋の広さが切り換わります。

ANALOG L R SUBWFR SMALL ROOM VOL 20

SMALL ROOM ↔ MEDIUM ROOM
LARGE ROOM

リスニングルーム内のスピーカー配置に応じて、部屋の広さを選びます。
選んだ部屋の広さによって遅延の設定は以下のようになります。(×はリスニングポジション)

SMALL ROOM
: サラウンドスピーカー 3 msec
センタースピーカー 1 msec

MEDIUM ROOM
: サラウンドスピーカー 2 msec
センタースピーカー 1 msec

LARGE ROOM
: サラウンドスピーカー 0 msec
センタースピーカー 0 msec

・遅延の設定の詳細については「スピーカーの遅延の設定(CNTR DL、SURR DL)」(➡ ***33*** ページ)をご覧ください。

9 SETボタンを押す

SET / TUNER PRESET

「SETUP END」と表示され、設定が終了します。
数秒後に設定前に選んだソースの表示に戻ります。

ANALOG L R SUBWFR SETUP END VOL 20

・操作の途中でADJUSTボタンまたはSUROUNDボタンを押すと、設定はキャンセルされます。·
・「SETUP END」と表示されるまではそれまでの手順の設定は記憶されません。
・簡単スピーカー設定の後で、スピーカーの大きさを変更する場合は、詳細なスピーカー設定(➡ ***32*** ページ)を行ってください。

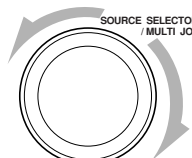
調節・設定する

スピーカーの設定をする(つづき)

詳細なスピーカー設定

接続した各スピーカーについて次の設定をします。
- サブウーハーの設定(「SUBWFR」)
- スピーカーサイズの設定(「FRNT SP」「CNTR SP」「SURR SP」)
- スピーカーの遅延設定(「CNTR DL」「SURR DL」)
- クロスオーバー周波数の設定(「CROSS」)

操作の手順

途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

 本体のみ

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGつまみを回して設定する項目を表示させ、SETボタンを押す

ここでは黒字の項目の設定をします。

SET / TUNER PRESET

つまみを回すごとに次のように設定項目が切り換わります。

ANALOG L R SUBWFR　SUBWFR :YES VOL 20

SUBWFR ↔ FRNT SP ↔ CNTR SP ↔
SURR SP ↔ CNTR DL ↔ SURR DL ↔
CROSS ↔ LFE ↔ D.COMP ↔
DIGITAL IN* ↔ AUTO SR ↔ DVD V ↔
DBS V ↔ QUICK SETUP ↔ (始めに戻る)

・各設定項目についてはこのあとのそれぞれの説明をご覧ください。(➡ ***32***、***33*** ページ)

3 MULTI JOGつまみを回して手順**2**で選択した項目の設定を決め、SETボタンを押す

設定が本体に記憶されます。

例:サブウーハーの設定で「YES」を選んだ場合

ANALOG L R SUBWFR　SUBWFR :YES VOL 20

4 他の項目を設定する場合には手順**2**と**3**をくり返す

サブウーハーの設定(SUBWFR)

サブウーハーを使用している場合は「YES」を選択してください。

ANALOG L R SUBWFR　SUBWFR :YES VOL 20

SUBWFR:YES ↔ SUBWFR: NO

SUBWFR YES
: サブウーハーを使用するときに選びます。
SUBWFR表示が点灯します。
サブウーハーの出力レベルを調整できるようになります。　[お買い上げ時の設定]

SUBWFR NO
: サブウーハーを接続していないとき、またはサブウーハーを使用しないときに選びます。

スピーカーサイズの設定(FRNT SP、CNTR SP、SURR SP)

お使いのスピーカー(フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー)のそれぞれのサイズを本機に登録します。スピーカーの接続を終えてから設定します。
お使いのスピーカーに内蔵されているスピーカーユニットの口径によってサイズを選びます。

- まず設定するスピーカーを選択します。

FRNT SP(フロント スピーカー)	:フロントスピーカーのサイズを設定します。
CNTR SP(センター)	:センタースピーカーのサイズを設定します
SURR SP(サラウンド)	:サラウンドスピーカーのサイズを設定します。

- 次にサイズを選択します。

例:サラウンドスピーカーを選んだ場合

ANALOG L R　SURR SP:SML VOL 20

SURR SP:SML ↔ SURR SP: NO ↔
SURR SP:LRG ↔ (始めに戻る)

LRG(ラージ)(大)	:スピーカーユニットの口径が12cm以上のときに選びます。
SML(スモール)(小)	:スピーカーユニットの口径が12cm未満のときに選びます。
NO(なし)	:スピーカーを接続していないときに選びます。(フロントスピーカーでは選べません)。

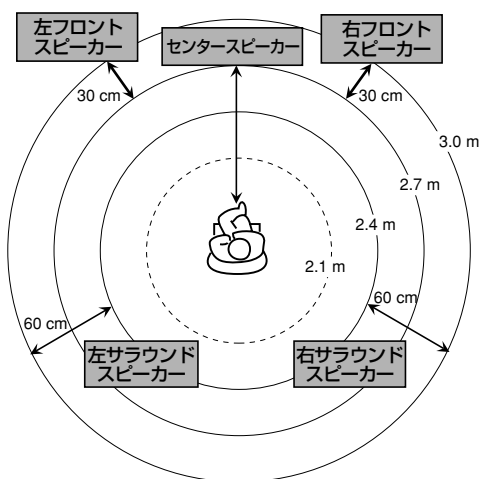
ご注意

- サブウーハーの設定を「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LRG」しか選べません。
- フロントスピーカーのサイズを「SML」に設定したときは、サラウンドスピーカーやセンタースピーカーを「LRG」に設定することはできません。

スピーカーの遅延設定(CNTR DL、SURR DL)

ドルビーデジタル、DTSデジタルサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。
本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離のばらつきを調節するためにリスニングポジションへの**音の到達時間の差(遅延時間)**を設定することができます。

- 音の到達時間は、**約30cmの差で0.001秒**変わります。
- 設定できる時間は、「**0ms**(0秒)」から「**5ms**(0.005秒=1.5m)」(サラウンドスピーカーは**15ms**(0.015秒=4.5m)までで、単位は**1ms**(0.001秒)きざみになっています。
- フロントスピーカーとサラウンドスピーカーについて、左右のスピーカーを別々に設定することはできません。左右のスピーカーはリスニングポジションから同じ距離の所に設置してください。

例: 下図のようにスピーカーを配置したときは、センタースピーカーを「1ms」に、サラウンドスピーカーを「2ms」に設定します。

例:センタースピーカーを選んだ場合。

ANALOG L R SUBWFR CNTR DL 0ms VOL 20

CNTR DL 0ms ↔ CNTR DL 5ms

CNTR DL (センター ディレイ)	センタースピーカーの時間差を設定します。 [お買い上げ時の設定:0ms]
SURR DL (サラウンド ディレイ)	左右のサラウンドスピーカーの時間差を設定します。 [お買い上げ時の設定:0ms]

クロスオーバー周波数の設定(CROSS)

小型スピーカーでは低音を効果的に再生できないことがあります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているとき、その低音要素を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。

- 「スピーカーサイズの設定」(➡ ***32*** ページ)ですべてのスピーカーを「LRG」に設定しているときは、この機能は働きません。

ANALOG L R CROSS:150Hz VOL 20

CROSS: 80Hz ↔ CROSS:100Hz ↔ CROSS:120Hz ↔ CROSS:150Hz ↔ CROSS:200Hz ↔ CROSS: 80Hz

クロスオーバー周波数を大きく設定すると、スピーカーの口径が小さい場合でも、低音要素は損なわれにくくなります。
下記の表を参考に設定してください。

CROSS: 80Hz
: スピーカーの口径が12cm以上のとき選びます。

CROSS:100Hz
: スピーカーの口径が10cm程度のとき選びます。

CROSS:120Hz
: スピーカーの口径が8cm程度のとき選びます。

CROSS:150Hz
: スピーカーの口径が6cm程度のとき選びます。
[お買い上げ時の設定]

CROSS:200Hz
: スピーカーの口径が5cm以下のとき選びます。

映像・音声の設定をする

次の項目について設定します。

- デジタル入力端子に接続した機器名を設定する(「DIGITAL IN」)
- 低音域のレベル設定(「LFE」)
- ダイナミックレンジの設定(「D.COMP」)
- オートサラウンドを設定する(「AUTO SR」)
- 映像入力モードを設定する(「DVD V」、「DBS V」)

操作の手順

途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

本体のみ

1 SETTING(セッティング)ボタンを押す

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGつまみを回して設定する項目を表示させ、SETボタンを押す

ここでは黒字の項目の設定をします。

つまみを回すごとに次のように設定項目が切り換わります。

ANALOG L R SUBWFR　DIGITAL IN　VOL 20

SUBWFR ↔ FRNT SP ↔ CNTR SP ↔
SURR SP ↔ CNTR DL ↔ SURR DL ↔
CROSS ↔ LFE ↔ D.COMP ↔
DIGITAL IN* ↔ AUTO SR ↔ DVD V ↔
DBS V ↔ QUICK SETUP ↔ (始めに戻る)

* 「DIGITAL IN」を選んだときは、すぐに現在の設定が表示されます。

- 各設定項目についてはこのあとのそれぞれの説明をご覧ください。(➡ ***34***~***36*** ページ)

3 MULTI JOGつまみを回して手順**2**で選択した項目の設定を決め、SETボタンを押す

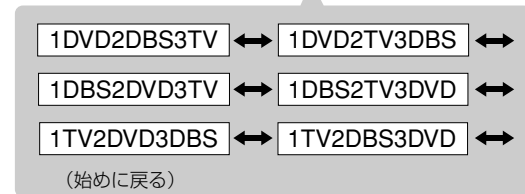
設定が本体に記憶されます。

例:「DIGITAL IN」の項目から「1TV2DBS3DVD」を選んだ場合。

ANALOG L R　1TV2DBS3DVD　VOL 20

デジタル入力端子に接続した機器名を設定する(DIGITAL IN)

デジタル入力端子(デジタル1~3)に接続した機器名を設定します。正しく設定しないと、デジタル音声を聞くことができませんのでご注意ください。

ANALOG L R　1DVD2DBS3TV　VOL 20

「1DVD2DBS3TV」は、「デジタル1」にDVD、「デジタル2」にBSデジタルチューナーまたはBS/CSチューナー、「デジタル3」にTVを割り当てていることを意味します。

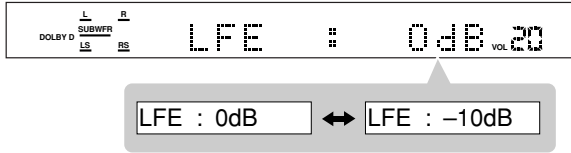
設定	内容
1DVD2DBS3TV	: デジタル1:DVD デジタル2:DBS デジタル3:TV [お買い上げ時の設定]
1DVD2TV3DBS	: デジタル1:DVD デジタル2:TV デジタル3:DBS
1DBS2DVD3TV	: デジタル1:DBS デジタル2:DVD デジタル3:TV
1DBS2TV3DVD	: デジタル1:DBS デジタル2:TV デジタル3:DVD
1TV2DVD3DBS	: デジタル1:TV デジタル2:DVD デジタル3:DBS
1TV2DBS3DVD	: デジタル1:TV デジタル2:DBS デジタル3:DVD

低音域のレベル設定(LFE)

ドルビーデジタル音声を再生中に、低音がひずむとき設定します。

- この機能は「サブウーハーの設定」(➡*32*ページ)で「YES」を選んでいて、LFE(エルエフイー)音声信号(Low(ロー) Frequency(フリケンシー) Effect(エフェクト):低音域信号)が入力されたときに限り働きます。

DOLBY D SUBWFR L R LS RS LFE : 0dB VOL 20

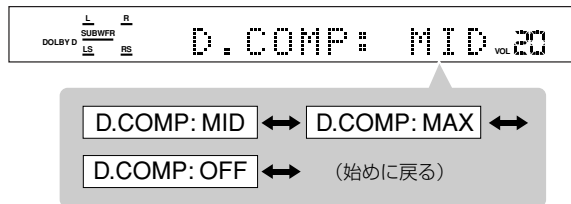
LFE : 0dB ⟷ LFE : –10dB

0dB	:通常はこれを選びます。[お買い上げ時の設定]
−10dB	:低音域がひずむときに選びます。

ダイナミックレンジの設定(D.COMP)

ドルビーデジタルの音声を再生しているときにダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を圧縮(コンプレッション)することができます。夜間にサラウンドをお楽しみいただくときに使います。

- 再生するソース(音源)によって、効果の大きさは異なります。

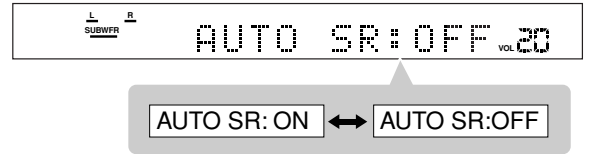
DOLBY D SUBWFR L R LS RS D.COMP: MID VOL 20

D.COMP: MID ⟷ D.COMP: MAX ⟷ D.COMP: OFF ⟷ (始めに戻る)

OFF	:ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。
MID	:ダイナミックレンジを少し圧縮したいときに選びます。[お買い上げ時の設定]
MAX	:ダイナミックレンジの圧縮を最大にしたいときに選びます(夜間など周囲の方に迷惑をかけたくないときに選びます)。

オートサラウンドを設定する(AUTO SR)

本機はマルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると、自動的に適切なサラウンドを選ぶことができます。
オートサラウンドを「**OFF**」に設定しているときは、マルチチャンネルのデジタル音声信号が入力したときに、手動でサラウンドを「**入**」にする必要があります。

SUBWFR L R AUTO SR:OFF VOL 20

AUTO SR: ON ⟷ AUTO SR:OFF

ON	:オートサラウンドを使うときに選びます。AUTO SR表示が点灯します。
OFF	:オートサラウンドを使わないときに選びます。[お買い上げ時の設定]

次のときは、オートサラウンドは働きません。

- アナログ音声入力が選ばれているとき
- リニアPCMで録音されたソフトを再生中のとき
- 手動でデジタル入力信号フォーマット(DOLBY D、DTS、MPEG-2 AAC)を選んでいるとき(➡ *23* ページ)

ご注意

- オートサラウンドが「ON」になっているときは、他のサラウンドが選ばれていても、マルチチャンネルのデジタル音声信号を識別すると選択中のサラウンドは解除されます。
- オートサラウンドが「ON」になっているときに、**SURROUND**ボタン(またはリモコンの**サラウンド**ボタン)を押すと、一時的にオートサラウンドは解除(「OFF」)されます。
また、次のときは、オートサラウンドは「ON」に戻ります。
—電源を「**入**」⟷「**切**」する
—他のソース(音源)を選ぶ
—オートサラウンドをもう一度「ON」にする

調節・設定する

次ページに続く

映像・音声の設定をする(つづき)

オートサラウンドの詳しい動作について

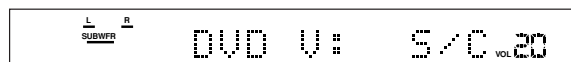
オートサラウンド機能で、デジタル音声信号と選ばれるサラウンドの関係は次のようになっています。

- **3ch以上の音声信号のとき**
  デジタル音声フォーマットに対応するサラウンドが選ばれます。
- **ドルビーサラウンドのようなマトリクス処理された2chの音声信号(Lt/Rt)のとき**
  再生中のデジタル音声フォーマットに関わらず、サラウンドモードの「PL II MOVIE」が選ばれます。
- **ドルビーデジタル(DD)、DTS、MPEG2-AACの2chの音声信号(Lo/Ro)のとき**
  サラウンドオフとなり、「STEREO」になります。
- **上記以外の2ch音声信号のとき**
  オートサラウンドは働きません。

映像入力モードを設定する (DVD V、DBS V)

DVDプレーヤー、BS/CSチューナーを入力端子に接続したとき、それぞれの入力端子の種類を設定しておく必要があります。

例:「DVD V」の項目から「S/C」を選んだ場合

DVD V: S/C VOL 20

DVD V : S/C ⟷ DVD V : COMP

・DVDプレーヤーを接続するとき

DVD V: S/C
: DVDプレーヤーをS映像端子か映像端子(コンポジット端子)に接続しているときに選びます。
[お買い上げ時の設定]

DVD V: COMP
: DVDプレーヤーをD映像端子に接続しているときに選びます。

・BSデジタルチューナーまたはBS/CSチューナーを接続するとき

DBS V: S/C
: BS/CSチューナーをS映像端子か映像端子(コンポジット端子)に接続しているときに選びます。
[お買い上げ時の設定]

DBS V: COMP
: BS/CSチューナーをD映像端子に接続しているときに選びます。

音量・音質の調節をする

次の項目について設定します。これらの設定は、ソースごとに記憶されます。ただし＊印はサラウンドモードごとに記憶されます。

- **音質の調節(「BASS」「TREBLE」)**
- **スピーカーの出力レベルの調節(「SUBWFR」「CENTER」「SURR L」「SURR R」)**
- **フロントスピーカーの左右のバランス(「BAL」)**
- **エフェクトの調節(「EFFECT」)＊**
- **パノラマ機能(「PANORAMA」)＊**
- **低音を調節する(「B.BOOST」)**
- **インプットアッテネーター(「ATT」)**

操作の手順

- 途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

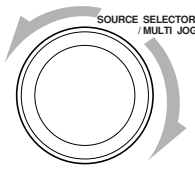
本体から

1 **ADJUST(アジャスト)ボタンを押す**

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

2 **MULTI JOGつまみを回して設定する項目を表示させ、SETボタンを押す**

つまみを回すごとに次のように設定項目が切り換わります。

ANALOG L R SUBWFR BASS 0 VOL 20

BASS ↔ TREBLE ↔ SUBWFR ↔
CENTER* ↔ SURR L* ↔ SURR R* ↔
EFFECT* ↔ PANORAMA* ↔ BAL ↔
B.BOOST ↔ ATT ↔ (始めに戻る)

* サラウンドが「OFF」のときは選べません。
ただし、ソースがDVD MULTIのときは「CENTER」、「SURR L」、「SURR R」を選ぶことができます。

・スピーカーのサイズ設定やサブウーハーの設定で「NO」と設定しているときは、「SUBWFR」、「CENTER」、「SURR L」、「SURR R」は選べません。
・EFFECTはDAPモードのときに選べます。
・PANORAMAはPL II MUSICのときに選べます。

各設定項目についてはこのあとのそれぞれの説明をご覧ください。(➡ ***37***、***38*** ページ)

3 **MULTI JOGつまみを回して、手順2で選択した項目の設定を決め、SETボタンを押す**

設定が本体に記憶されます。

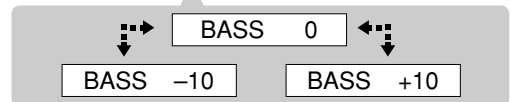
例:「BASS」の項目を選んだ場合

ANALOG L R SUBWFR BASS +2 VOL 20

4 **他の項目を設定する場合には手順2と3をくり返す**

音質の調節(BASS、TREBLE)

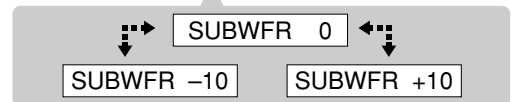
フロントスピーカーの高音と低音をお好みに合わせて調節します。

- 2(dB)単位で増幅または減衰し、「−10」〜「+10」の範囲で調節できます。

BASS(バス)	: 低音を調節するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]
TREBLE(トレブル)	: 高音を調節するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]

リモコンからも同じ設定をすることができます。詳しくは「音質の調節(BASS、TREBLE)」(➡ ***24*** ページ)をご覧ください。

スピーカー出力レベルの調節(SUBWFR、CENTER、SURR L、SURR R)

センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サブウーハーの出力レベルを調節します。

- 1(dB)単位で増幅または減衰し、「−10」〜「+10」の範囲で調節できます。
- スピーカーを使わない設定のときやサラウンドモードによっては、調節のできないスピーカーがあります。
「サブウーハーの設定」(➡ ***32*** ページ)
「スピーカーサイズの設定」(➡ ***32*** ページ)
「サラウンドを使う」(➡ ***39***〜***43*** ページ)

SUBWFR(サブウーハー)	: サブウーハーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]
CENTER(センター)	: センタースピーカーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]
SURR L(サラウンド 左)	: 左サラウンドスピーカーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]
SURR R(サラウンド 右)	: 右サラウンドスピーカーの出力レベルを設定するときに選びます。[お買い上げ時の設定: 0(dB)]

リモコンからも同じ設定をすることができます。詳しくは「サラウンドの調節」(➡ ***42*** ページ)をご覧ください。

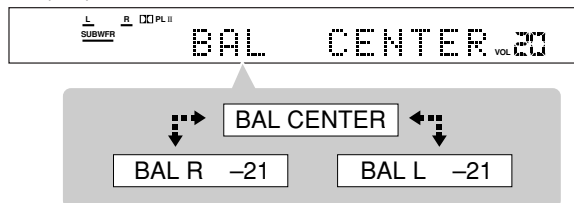
音量・音質の調節をする（つづき）

フロントスピーカーの左右バランスの調節（BAL）

左右のフロントスピーカーがリスニングポイントから同じ距離に置けないときは、左右のフロントスピーカーの音量バランスを調節します。

- 「BAL L −21」〜「BAL R −21」の範囲で、「BAL CENTER」から1（dB）単位で調節できます。

BAL CENTER VOL 20

BAL CENTER
BAL R –21 / BAL L –21

BAL L（バランス 左）	：フロントスピーカー出力の左右のバランスが右側に移動します。
BAL R（バランス 右）	：フロントスピーカー出力の左右のバランスが左側に移動します。
BAL CENTER（バランス）	：バランスを元に戻します。 [お買い上げ時の設定]

エフェクトの調節（EFFECT）

DAP（ディエーピー）モード（LIVE CLUB（ライブ クラブ）、DANCE CLUB（ダンス クラブ）、HALL（ホール）、PAVILION（パビリオン））をお楽しみいただいているとき、その効果の度合い（エフェクトレベル）を調節することができます。

- DAPモードの選びかたについては、「サラウンドの使いかたとスピーカー配置」（➡ ***41*** ページ）をご覧ください。

EFFECT 3 VOL 20

EFFECT 1 ⟷ EFFECT 5

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなると各DAPモードの効果が大きくなります。

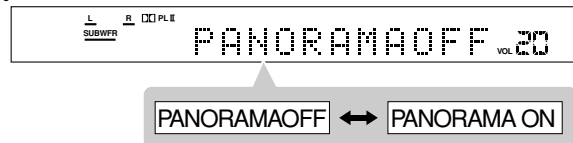
リモコンからも同じ調節をすることができます。詳しくは「エフェクトの調節（EFFECT）」（➡ ***42*** ページ）をご覧ください。

パノラマ機能（PANORAMA）

PLⅡ MUSICモードのとき、音声が回り込んでくるような効果を調節することができます。

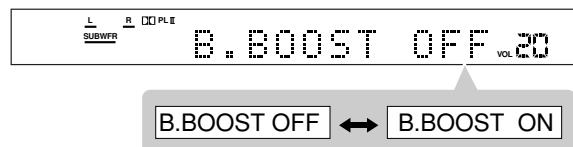
- PLⅡ MUSICモードの選びかたについては、「サラウンドの使いかたとスピーカー配置」（➡ ***41*** ページ）をご覧ください。

PANORAMAOFF VOL 20

PANORAMAOFF ⟷ PANORAMA ON

PANORAMAOFF（パノラマ オフ）	：通常の音声で再生します。 [お買い上げ時の設定]
PANORAMA ON（パノラマ オン）	：音声が回り込んでくるような効果を強調します。

低音を強調する（バスブースト）

フロントスピーカーの低音を強調することができます。

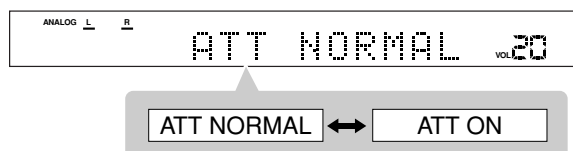
B.BOOST OFF VOL 20

B.BOOST OFF ⟷ B.BOOST ON

B.BOOST OFF（バス ブースト オフ）	：通常の設定値で再生します。 [お買い上げ時の設定]
B.BOOST ON（バス ブースト オン）	：低音を4dB増幅します。BASS BOOST表示が点灯します。

リモコンからも同じ設定をすることができます。詳しくは「低音を強調する（バスブースト）」（➡ ***24*** ページ）をご覧ください。

インプットアッテネーター（ATT）

アナログ入力時にソースの信号が大きく、音がひずんでしまうときに使います。

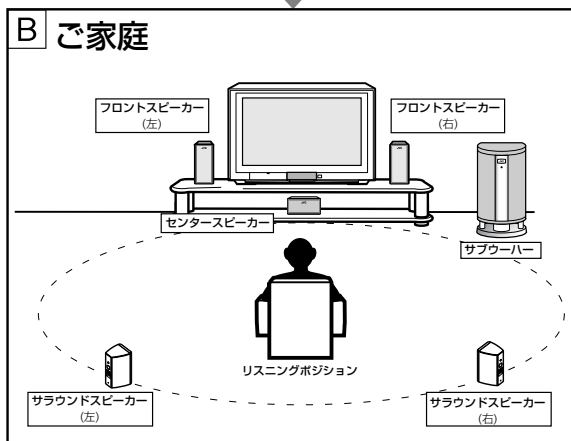
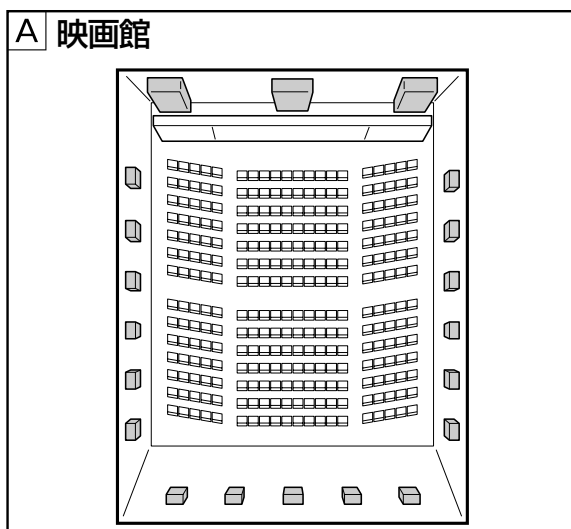
ATT NORMAL VOL 20

ATT NORMAL ⟷ ATT ON

ATT NORMAL（アッテネーター ノーマル）	：通常はこちらを選びます。アナログ入力信号は調節されません。 [お買い上げ時の設定]
ATT ON（アッテネーター オン）	：アナログ音声がひずんでしまうとき、こちらを選びます。入力信号は調節され減衰します。INPUT ATT表示が点灯します。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めています。

本機は、5つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。**(図B)**

本機搭載のDSP（デジタル･シグナル･プロセッサー）により次のサラウンドをお楽しみいただけます。

- **マルチチャンネルサラウンド（ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC）**
- **ドルビープロロジックⅡ（プロロジックⅡムービー、プロロジックⅡミュージック）**
- **DAP（LIVE CLUB、DANCE CLUB、HALL、PAVILION）**
- **オールチャンネルステレオ（ALL CH ST.）**

● ドルビーデジタル *1

DVDソフトに使われているマルチチャンネル対応の音声圧縮方式のひとつです（このようなソフトには DOLBY DIGITAL マークが記載されます）。
ドルビーデジタル5.1chの場合、フロント左右、センター、サラウンド左右、サブウーハーの5.1ch（サブウーハーは0.1chと数えます）の各チャンネルを完全に独立した音声として再生するので、チャンネル間の干渉も少なく、より優れた音質でより立体的なサラウンドが再現できます。

本機にはドルビーデジタルデコーダーが搭載されています。

- 外部接続した機器でドルビーデジタル音声を再生するには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください。（➡ ***14*** ページ）
- ドルビーデジタル信号が検出されると、表示窓の**DOLBY D**表示（➡ ***23*** ページ）が点灯します。

● DTS *2

DTSデジタルサラウンドは、CD、LD、DVDなどに使われています（このようなソフトには DTS マークが記載されています）。
ドルビーデジタル同様5.1chのデジタル音声フォーマットですが、音声圧縮率を低く設定してあるため、厚みのある、より高音質な再生が可能となります。

本機にはDTSサラウンドデコーダーが内蔵されていますので、DTSデジタルサラウンドの映像ソフトが再生できます。

- 外部接続した機器でDTSサラウンド音声を再生するには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください。（➡ ***14*** ページ）
- DTS信号が検出されると、表示窓の**DTS**表示（➡ ***23*** ページ）が点灯します。

● MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）

MPEG-2 オーディオの標準方式のひとつで、BSデジタル放送で採用されている音声符合化規格です。
低ビットレートで高音質を確保できる点が特長で、番組内容により5.1chのマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

- AACサラウンドの音声を聞くには、お使いになる機器を本体背面のデジタル入力端子に接続してください。（➡ ***17*** ページ）
- MPEG-2 AAC信号が検出されると、表示窓の**AAC**表示（➡ ***23*** ページ）が点灯します。

米国パテントナンバー

5,848,391;　5,291,557;　5,451,954;
5,400,433;　5,222,189;　5,357,594;
5,752,225;　5,394,473;　5,583,962;
5,274,740;　5,633,981;　5,297,236;
4,914,701;　5,235,671;　07/640,550;
5,579,430;　08/678,666;　98/03037;
97/02875;　97/02874;　98/03036;
5,227,788;　5,285,498;　5,481,614;
5,592,584;　5,781,888;　08/039,478;
08/211,547;　5,703,999;　08/557,046;
08/894,844

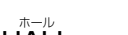
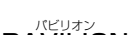
*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 DTSおよびDTS Digital Surroundは、デジタル･シアター･システムズ社の商標です。

● **ドルビープロロジックⅡ** *3
本機にはドルビープロロジックⅡデコーダーが内蔵されています。ドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声はもちろん、通常の2ch音声も5.1ch音声にまで拡張することができます。また、従来のドルビープロロジック方式でできなかったサラウンドスピーカーの高音域も再生することができます。このため、より奥行きと広がりのあるサラウンドがお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックⅡには次の2つのモードがあります。

プロロジックⅡムービー（PLⅡ MOVIE）
DOLBY SURROUNDマークのついたドルビーサラウンド方式で記録された2ch音声、または2ch音声の映像ソフトの再生に向いています。DVDソフトなどのマルチチャンネル5.1ch音声に近い音場での再生をお楽しみいただけます。

プロロジックⅡミュージック（PLⅡ MUSIC）
2ch音声の音楽ソフトの再生に向いています。音楽ソフトの再生に適した広がりと奥行きを持った音場をお楽しみいただけます。

- ドルビープロロジックⅡは、ドルビーサラウンド方式で記録された音声も含めてすべての2ch音声に対して有効です。
- ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いていると、表示窓の**PLⅡ**表示（➡ ***10*** ページ）が点灯します。

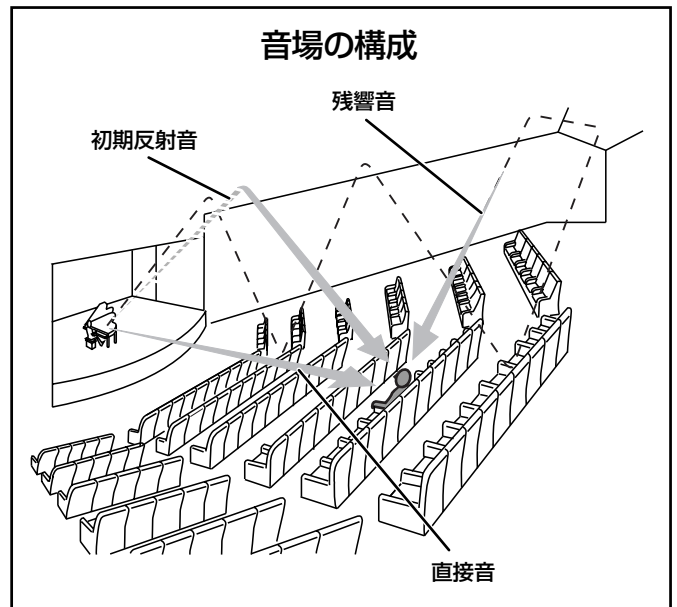
● **DAPモード**
コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音（**直接音**）と天井や壁などに反射してから耳に届く音（**初期反射音**）、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音（**残響音**）によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。

本機に搭載されているDAPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。

本機では次のDAPモードをお楽しみいただけます。

- LIVE CLUB（ライブ クラブ）：天井の低いライブハウスにいるような雰囲気です。
- DANCE CLUB（ダンス クラブ）：激しい低音のビートを刻みます。ディスコにいるような雰囲気です。
- HALL（ホール）：ボーカルがはっきりします。コンサートホールにいるような雰囲気です。
- PAVILION（パビリオン）：天井の高い展示会場にいるような雰囲気です。

*3　ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

音場の構成

- DAPモードはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに使うことができます。
- DAPモードをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続・設定する必要があります（センタースピーカーを接続・設定していても音声は出ません）。
- DAPモードをお使いのときは、表示窓のサラウンド表示の**DSP**表示（➡ ***10*** ページ）が点灯します。
- DAPモードを選んでいるときは、音響効果の度合い（エフェクトレベル）が調節できます。（➡ ***38*** ページ）

● **オールチャンネルステレオ（ALL CH ST）**
接続・設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。センタースピーカーが使えるときは、左右フロントスピーカーの音声をダウンミックスして、モノラル音声にします。

- オールチャンネルステレオはアナログ2ch音声やリニアPCMデジタル音声で録音されたソフトを再生するときに使うことができます。
- オールチャンネルステレオをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続・設定する必要があります。
- オールチャンネルステレオをお使いのときは、表示窓の**DSP**表示（➡***10*** ページ）が点灯します。

お知らせ
- サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。
  ースピーカーサイズ設定（➡ ***32*** ページ）
  ースピーカーの遅延（➡ ***33*** ページ）
  ーフロントスピーカーの左右バランス（➡ ***38*** ページ）

サラウンドの使いかたとスピーカー配置

お手持ちのスピーカーの数や入力している音声信号によって選べるサラウンドモードは異なります。

- フロントスピーカーしかお持ちでないときはサラウンドをお使いになれません。
- マルチチャンネルサラウンドについては、スピーカーの配置数(3ch以上)に関係なく選ぶことはできますが、すべてのスピーカーを適切に接続・設定しないと、十分なサラウンド効果をお楽しみいただけません。
- スピーカーの音量・音質の調節については***42***、***43*** ページをご覧ください。

オートサラウンドの設定が「ON」のとき、次の信号が入力されると自動的にサラウンドモードが選ばれます。詳しくは「オートサラウンドを設定する(AUTO SR)」(➡*35***、***36*** ページ)をご覧ください。**
• マルチチャンネルデジタル音声信号　• Dolby Digital 2ch　• DTS 2ch　• マトリクス処理された2ch音声信号

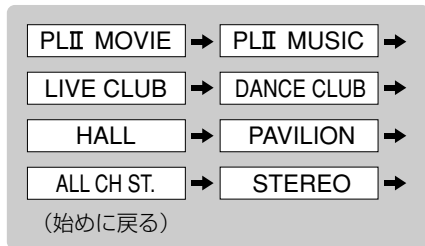
リモコンから

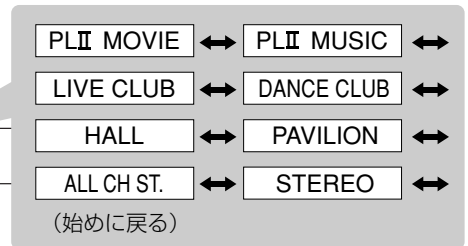
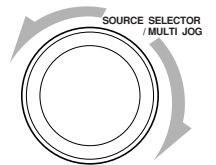
1 サラウンドボタンを押す

2 サラウンドボタンをくり返し押して、お好みのサラウンドモードを選ぶ

ボタンを押すごとに次のようにサラウンドモードが切り換わります。

本体から

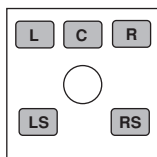
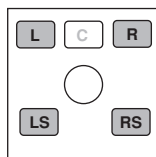
SURROUND(サラウンド)ボタンを押す

MULTI JOGつまみを回してお好みのサラウンドモードを選ぶ

つまみを回すごとに次のようにサラウンドモードが切り換わります。

- **マルチチャンネルデジタル音声信号のとき:**
  音声信号に対応したサラウンドが選ばれます。(➡ ***39***、***40*** ページ)選ばれたサラウンドモードと「STEREO」から切り換えることができます。
- **Dolby Digital 2ch、DTS 2ch、マトリクス処理された2ch音声信号(ドルビーサラウンドなど)のとき:**
  「PLⅡ MOVIE」、「PLⅡ MUSIC」、「STEREO」から切り換えることができます。

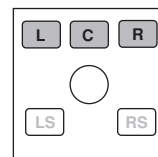
お手持ちのスピーカーの数によって選べるサラウンドモードが異なります。詳しくは下の「お使いになれるサラウンド」をご覧ください。

お使いになれるサラウンド

スピーカーの設定数で選べるサラウンドモードは次のようになります。

5スピーカー　**4スピーカー**

L C R / LS RS

- ドルビープロロジックⅡ(PLⅡ MOVIE、PLⅡ MUSIC)
- DAP(ディーエーピー) (LIVE CLUB(ライブクラブ)、DANCE CLUB(ダンスクラブ)、HALL(ホール)、PAVILION(パビリオン))
- オールチャンネルステレオ (ALL CH ST.)

3スピーカー

- ドルビープロロジックⅡ
  (PLⅡ MOVIE、PLⅡ MUSIC)

サラウンドを使う（つづき）

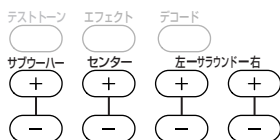
サラウンドの調節

サラウンドをより効果的にお楽しみいただくために、各スピーカーの音量、音質を調節します。
リスニングポジションから調節すると効果的です。
・ 設定はソースごとに記憶されます。
・ テストトーンを使うと各スピーカーの出力レベルをより正確に調節することができます。

出力レベルを調節する

リモコンから

1 お好みのソフトを再生してサラウンドを使う（➡ *41* ページ）

2 調節する項目のボタンを押す

・ +を押すと出力レベルが大きくなります。

・ −を押すと出力レベルが小さくなります。

センター(+/−)
: センタースピーカーの出力レベルを調節します。
1(dB)単位で増幅または減衰し、「−10」～「+10」の範囲で調節できます。［お買い上げ時の設定: 0(dB)］

サラウンド･左/右(+/−)
: 左右のサラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
1(dB)単位で増幅または減衰し、「−10～「+10」の範囲で調節できます。［お買い上げ時の設定: 0(dB)］

サブウーハー(+/−)
: サブウーハーの出力レベルを調節します。
2(dB)単位で増幅または減衰し、「−10」～「+10」の範囲で調節できます。［お買い上げ時の設定: 0(dB)］

・ スピーカーのサイズ設定やサブウーハーの設定で「NO」と設定しているときは調節できません。

本体でも同じ調節をすることができます。詳しくは「スピーカー出力レベルの調節（SUBWFR、CENTER、SURR L、SURR R）」（➡*37* ページ）をご覧ください。

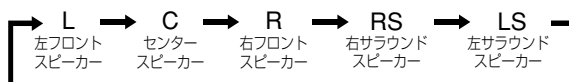
テストトーンを使うには

フロントスピーカーと同じ音量で聞こえるように各スピーカーの出力レベルを調節します。
・ 再生中の音声は聞こえなくなります。

リモコンのみ

テストトーンボタンを押す。

テストトーンは次の順番で、2秒ごとに各スピーカーから切り換えて出力されます。
テストトーンはおよそ1分間続きます。

L（左フロントスピーカー）➡ C（センタースピーカー）➡ R（右フロントスピーカー）➡ RS（右サラウンドスピーカー）➡ LS（左サラウンドスピーカー）

テストトーンをやめると.きは
もう一度**テストトーン**ボタンを押します。
・ テストトーン出力中に、サブウーハー(+/−)またはエフェクトの調節をすると、テストトーンは止まります。

お知らせ
・ スピーカーの設定で「NO」を選んでいるスピーカーの出力レベルの調節はできません。

エフェクトの調節(EFFECT)

DAP(ディエーピー)モード(LIVE(ライブ) CLUB(クラブ)、DANCE(ダンス) CLUB(クラブ)、HALL(ホール)、PAVILION(パビリオン))をお楽しみいただいているとき、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。
• DAPモードについては、「サラウンドを使う」(➡*40* ページ)をご覧ください。

リモコンから

1 サラウンドモードからDAP(ディエーピー)モードを選ぶ（➡ *41* ページ）

2 エフェクトボタンを押す

ボタンを押すごとに次のようにエフェクトレベルが切り換わります。

EFFECT 1 ➡ EFEECT 2 ➡
EFFECT 3 ➡ EFFECT 4 ➡
EFFECT 5 ➡ （始めに戻る）

［お買い上げ時の設定: 3］

・ 数字が大きくなると各DAPモードの効果が大きくなります。

本体でも同じ調節をすることができます。詳しくは「エフェクトの調節（EFFECT）」（➡*38* ページ）をご覧ください。

サラウンドの調節

パノラマ機能(PANORAMA)

PL II MUSIC モードのとき、音声が回り込んでくるような効果を調節することができます。

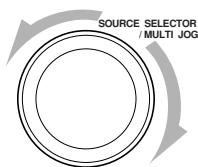
本体のみ

1 お好みのソフトを再生してサラウンドを使う(➡ *41* ページ)

「PL II MUSIC」を選びます。

2 ADJUST(アジャスト)ボタンを押す

MULTI JOGつまみが項目設定用に働くようになります。

3 MULTI JOGつまみを回して「PANORAMA」を選び、SETボタンを押す

PANORAMAOFF VOL 20

4 MULTI JOGつまみを回して設定を決める

つまみを回すごとに次のようにパノラマ機能設定が切り換わります。

PANORAMA ON VOL 20

PANORAMAOFF ⟷ PANORAMA ON

PANORAMA(パノラマ)OFF(オフ)
: 通常の音声で再生します。
[お買い上げ時の設定:]

PANORAMA(パノラマ) ON(オン)
: 音声が回り込んでくるような効果を強調します。

5 SETボタンを押す

設定が本体に記憶されます。

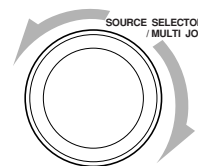
アナログマルチチャンネルを使う

本機は、5.1ch (DVD MULTI)のアナログマルチチャンネル入力端子があります。

DVD プレーヤーからの5.1ch アナログマルチチャンネル信号を再生することができます。
再生する前にDVDプレーヤー付属の取扱説明書をご覧ください。

1 ソースを「DVD MULTI」にする

リモコンから
DVD MULTIボタンを押します。

本体から
SOURCE SELECTORつまみを回して、「**DVD MULTI**」を表示させます。

2 DVDプレーヤーでアナログマルチチャンネル出力を設定し、再生する

DVDプレーヤーの操作については、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
・ お好みに応じてスピーカーの出力レベルを調節してください。(➡ *37*、*42* ページ)

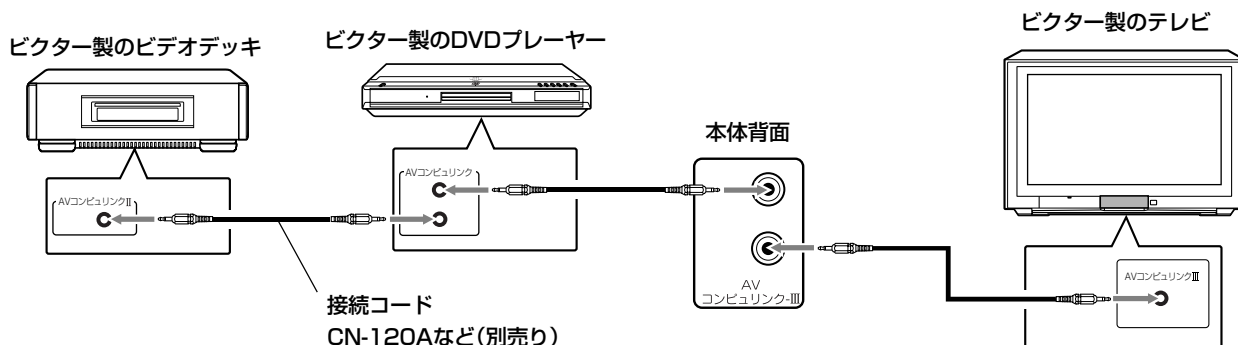
お知らせ

・「DVD MULTI」をソースに選んでいるとき、はサラウンドモードやDAPモードは働きません。またリモコンの**サラウンド**ボタンや本体の**SURROUND**ボタンも使えなくなります。
・ ヘッドホンを使うと、左右のフロントスピーカーの音声のみがヘッドホンから聞こえます。

AVコンピュリンク・リモートコントロールシステム

ビクター製の各機器を別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各ビデオ機器のAVコンピュリンク端子どうしを接続します。すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。

・ **接続する前に、必ず電源プラグを家庭用コンセントから抜いておいてください。**
  すべての接続が終わってから電源を入れてください。

AVコンピュリンクの接続

ご注意

- AVコンピュリンクでは、DBS入力端子に接続しているBS/CSチューナーを、操作することはできません。

お知らせ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- 操作するビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

DVDプレーヤーの自動再生

DVDプレーヤーを再生するだけで、本機の電源が自動的に「入」になり、ソース(音源)として「DVD」または「DVD MULTI」が選ばれます。
音声出力の設定ができるDVDプレーヤーでは、ステレオ再生(または2チャンネル再生)に設定されているときは「DVD」が選ばれます。5.1chのアナログマルチチャンネル音声に設定されているときは「DVD MULTI」が選ばれます。

- テレビの電源も自動的に「入」になり、テレビの入力は適切なビデオ入力に切り換わります。

テレビの自動入力切り換え

本機のソース(音源)をDVDにすると、テレビの入力が自動的に切り換わります。

- S映像入力端子に接続しているとき、「**ビデオ1**」に切り換わります。
- 映像入力端子に接続しているとき、「**ビデオ2**」に切り換わります。(ただし、ビクター製テレビではBSデコーダー入力として「**ビデオ2**」が使われているときは「**ビデオ3**」に切り換わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
- D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子に接続しているとき、「**ビデオ3**」に切り換わります(テレビ側が対応しているとき)。

自動電源「入」⟷「切」

TV端子やVTR端子に接続されているテレビやビデオデッキの電源が、本機の電源に連動して「**入**」⟷「**切**」します。

本機の電源を「入」にすると:

- 前回選択していたソースが「**DVD**」のとき、DVD入力端子に接続されているDVDプレーヤーとテレビの電源も自動的に入ります。
- 前回選択していたソースが「**VTR**」のとき、ビデオデッキとテレビの電源も自動的に入ります。
- 前回選択していたソースが「**DBS**」、「**TV**」のときは、テレビのみの電源が自動的に入ります。

本機の電源を切ると:

DVDプレーヤー、ビデオデッキ、テレビの電源が自動的に「**切**」になります。

お知らせ

- ビデオデッキで録画中に、本機の電源を切っても、ビデオデッキの電源は切れず録画が続きます。
- AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、本機の映像出力の設定を行う必要があります。本機とテレビとの接続に合わせて、正しく設定してください。
- AVコンピュリンクⅢ対応以前の製品をお使いのときは、正しく動作しない場合があります。

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機に付属しているリモコンでビクター製のビデオ機器を操作することができます。

その前に･･･

- 日本ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードを使えるものがあります。
  本機のリモコンを使って、お手持ちのビクター製ビデオデッキをお使いになるには、VTR入力端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておく必要があります。
- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

リモコンで操作する前に･･･

- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のソース機器選択ボタンで選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース機器選択ボタンを使って選んでください。

DVDプレーヤー

⏻/I DVD　：DVDプレーヤーの電源を「入」⟷「切」します。

DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶　：再生を始めます。
◀◀　：チャプターまたはトラックを後へ戻します。
▶▶　：チャプターまたはトラックを先へ進めます
|◀◀　：前のチャプターまたはトラックの頭へスキップします。
▶▶|　：次のチャプターまたはトラックの頭へスキップします。
■　：再生を停止します。
❚❚　：再生を一時停止します。もう一度再生を始めるときは、▶ボタンを押します。
トップメニュー、メニュー　：DVDソフトのメニューを表示させせます。
1～9、0　：チャプターまたはトラックを選びます。
画面表示　：メニューバーを表示させせます。
設定　：DVDプレーヤーの初期設定メニューを表示させます。
カーソル（▲、▼、▶、◀）、決定　：メニュー操作をします。
音声　：音声の設定を選ぶメニューを表示させせます。
字幕　：字幕の設定を選ぶメニューを表示させせます。
アングル　：アングルの設定を選ぶメニューを表示させせます。
リターン　：前のメニュー画面に戻ります。

DVDプレーヤーによってはこれらの機能がお使いになれない場合があります。そのときはDVDプレーヤーに付属のリモコンをお使いください。

テレビ

⏻/I テレビ　：テレビの電源を「入」⟷「切」します。
テレビ音量（＋/－）　：音量を調節します。
テレビ/ビデオ　：テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1～10、11、12　：受信チャンネルを選びます。
チャンネル（＋/－）　：チャンネルを変更します。

デジタルテレビは本機のリモコンでは操作できません。

ビデオデッキ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。

⏻/I ビデオ　：ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1～9、0　：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを選びます。
チャンネル（＋/－）　：チャンネルを変更します。
▶　：再生を始めます。
◀◀　：テープを巻き戻します。
▶▶　：テープを早送りします。
■　：再生（または録画）を停止します。
❚❚　：再生（または録画）を一時停止します。再び再生（または録画）を始めるときは、▶ボタンを押します。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキを操作することができます。

リモコンで他メーカーのテレビやビデオデッキを操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意

- リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度メーカーの設定をやり直してください。

テレビのメーカーを設定する

1. ⏻/I テレビボタンを押したまま･･･ TVボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: お使いのテレビが松下製(23)のとき

TV ➡ 2 ➡ 3と押す

各メーカーのコード番号は下記の表をご覧ください。

2. ⏻/I テレビボタンを離す

3. ⏻/I テレビボタンを押して設定を確認する

テレビの電源が「入」⟷「切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直します。

テレビを操作する

⏻/I テレビ :テレビの電源を「入」⟷「切」します。
テレビ音量(+/−) :テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ :テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

1～10、11、12 :テレビの受信チャンネルを選びます。
チャンネル(+/−) :テレビのチャンネルを変更します。

デジタルテレビは、本機のリモコンでは操作できません。

•メーカーコード番号一覧(テレビ)

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01、02、03
アイワ	28、29
NEC	15
コルティナ	31、32、33、34
サンヨー	04、05、06
シャープ	07、08
ソニー	11、12、13
東芝	14
パイオニア	16
日立	17、18
フィリップス	30
富士通ゼネラル	09、10
フナイ	19、20、21、22
松下	23、24、25、26
三菱	27

ビデオデッキのメーカーを設定する

1. ⏻/I ビデオボタンを押したまま･･･ VTRボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例: お使いのビデオデッキが松下製(24)のとき

VTR ➡ 2 ➡ 4と押す

各メーカーのコード番号は下記の表をご覧ください。

2. ⏻/I ビデオボタンを離す

3. ⏻/I ビデオボタンを押して設定を確認する

ビデオデッキの電源が「入」⟷「切」できたら設定は終了です。
もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直します。

ビデオデッキを操作する

⏻/I ビデオ :ビデオデッキの電源を「入」⟷「切」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

► :再生を始めます。
■ :再生(または録画)を停止します。
❚❚ :再生(または録画)を一時停止します。再び再生(または録画)を始めるときは、►ボタンを押してください。
◄◄ :テープを巻き戻します。
►► :テープを早送りします。
チャンネル(+/−) :チャンネルを変更します。

•メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01、02、03
アイワ	30、31、32、33、34
NEC	16、17、18、19
コルティナ	36
サンヨー	04、05、06、07
シャープ	08、09
ソニー	11、12、13
東芝	14、15
パイオニア	20
日立	21、22
フィリップス	35
富士通ゼネラル	10
フナイ	23
松下	24、25、26、27
三菱	28、29

DVDプレーヤーのメーカーを設定する

1. **⏻/I DVDボタンを押したまま・・・**
DVDボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する

例： お使いのDVDプレーヤーが松下製(06)のとき

DVD ➡ 0 ➡ 6と押す

各メーカーのコード番号は下記の表をご覧ください。

2. **⏻/I DVDボタンを離す**

3. **⏻/I DVDボタンを押して設定を確認する**

DVDプレーヤーの電源が「**入**」⟺「**切**」できたら設定は終了です。もしうまく機能しないときは、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定をやり直します。

DVDを操作する

⏻/I DVD ：DVDプレーヤーの電源を「**入**」⟺「**切**」します。

DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

メニュー ：DVDソフトのメニューを表示させます

1～9、0 ：チャプターまたはトラックを選びます。

► ：再生を始めます。

◄◄ ：前のチャプターまたはトラックの頭へスキップします。

►► ：次のチャプターまたはトラックの頭へスキップします。

■ ：再生を停止します。

II ：再生を一時停止します。もう一度再生を始めるときは、►ボタンを押します。

カーソル(▲、▼、►、◄)、決定
：メニュー操作をします。

•**メーカーコード番号一覧(DVDプレーヤー)**

メーカー名	メーカーコード番号
日本ビクター	01
オンキョー	10、11
ケンウッド	08
サムスン	12
ソニー	02
東芝	03
パイオニア	04
日立	14
フィリップス	15
松下	06
三菱	09
ヤマハ	13

故障かな?と思う前に

故障かな?と思ったら、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本システム以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ ***50*** ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーが設定されている。	おやすみタイマーを解除する。(➡ ***22*** ページ)
電源「**入**」時にSTANDBYランプが点灯し、すぐ電源が「切」になる。	大音量のために本機に過負荷がかかっている。	**1.** 再生中のソース機器を止める。 **2.** 本機の電源を入れて音量を調節する。
	スピーカーコードがショート(短絡)したために本機に過負荷がかかっている。	電源コードを抜き、スピーカーの接続を確認する。 スピーカーコードがショート(短絡)していないときは販売店に問い合わせる。
	高電圧のために本機に過負荷がかかっている。	電源コードを抜いて販売店に問い合わせる。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが働かない。	本機から離れすぎているか、本機のほうに向けていない。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ ***19*** ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ ***19*** ページ)
	リモコン受光部に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎる。
テレビまたはビデオデッキが操作できない。	入力したメーカーコード番号が間違っている。	正しいメーカーコード番号を入力し直す。(➡ ***46***、***47*** ページ)
	ソース機器選択ボタンを押していない。	操作したい機器のソース機器選択ボタンを押してから、操作する。

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードが接続されていない。	正しく接続する。(➡ ***13*** ページ)
	オーディオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。(➡ ***14***、***16***〜***18*** ページ)
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	消音機能が働いている。	**消音**ボタンを押して消音機能を解除する。(➡ ***22*** ページ)
サラウンドモードを選ぶことができない。	フロントスピーカー以外のスピーカーが接続、設定されていない。	センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを接続し、正しく設定する。
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。
	左右のバランスが合っていない。	バランスを正しく調節する。(➡ ***38*** ページ)

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。
	間違ったソースが選ばれている。	正しいソースを選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。

ラジオ/その他について

症　状	原　因	処　置
FM/AM放送を受信中に連続的に雑音が入る、または受信できない。	受信している電波が弱すぎる。	FM屋外アンテナを接続するか、お買い上げの販売店に問い合わせる。
正しく動作しない。	放送局が遠い。	別の放送局を選ぶ。
	アンテナが正しく接続されていない。	正しく接続する。
	雷や電子ノイズでマイコンが誤動作している。	いったん電源「**切**」にし、電源プラグをコンセントから抜きしばらく待って接続し直す。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の
最低保有期間は、製造打切り後８年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

48、***49*** ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　　名	AUDIO/VIDEO コントロールアンプ
型　　　名	RX-ES1
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎（　　）　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

ビクターサービス窓口案内(ビクターサービスエンジニアリング株式会社)

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
	北海道			
北海道	札幌 S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0155)24-0797	080-0005	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函館 S.S.	(0138)52-5324	040-0001	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
	東北			
青森	青森 S.C.	(017)723-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178)44-4521	031-0803	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019)673-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水沢 S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石巻 S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山形 S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246)27-7991	973-8409	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	会津若松 S.S.	(0242)38-1355	965-0831	会津若松市表町1-44ハイツシンフォニー101
	福島 S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
	関東・甲信越			
新潟	新潟 S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下々条2-1366-1
	上越 S.S.	(025)545-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	長野 S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263)25-9165	390-0828	松本市庄内2-4-21
群馬	前橋 S.C.	(027)255-5921	371-8543	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター(株)前橋工場
栃木	宇都宮 S.C.	(028)638-1639	321-0953	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029)246-1560	310-8526	水戸市元吉田町1030 日本ビクター(株)水戸工場技術ビル1F
	土浦 S.S.	(029)821-8756	300-0813	土浦市富士崎1-10-1
山梨	甲府 S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千葉 S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	柏 S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本郷 S.C.	(03)5684-8254	113-0033	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	秋葉原 S.S.	(03)3251-2128	101-0021	千代田区外神田1-6-6
	練馬 S.C.	(03)3993-7520	176-0014	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03)3727-9385	145-0062	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426)46-6914	192-0045	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	CSセンター	(03)3874-5231	110-0003	台東区根岸5-4-3
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大宮 S.C.	(048)654-5241	331-0814	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	279-0001	千葉県浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横浜 S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	川崎 S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2(第2石原ビル)
	平塚 S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046)234-4500	243-0401	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
	東海・北陸			
静岡	静岡 S.C.	(054)282-4141	422-8043	静岡市中田本町62-31中田ビル1F
	沼津 S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
愛知	浜松 S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
	名古屋 S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564)51-5931	444-0833	岡崎市桂曙3-10-12
	豊橋 S.S.	(0532)64-0815	440-0028	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富山 S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211

都府県名	窓口名	TEL	〒	所在地
	近畿			
滋賀	滋賀 S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京都 S.C.	(075)644-0247	612-8401	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈良 S.C.	(0744)24-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.S.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	大阪メンテナンスセンター	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073)472-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S.	(0739)22-9976	646-0031	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大阪 S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神戸 S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1
	中国			
岡山	岡山 S.C.	(086)243-1566	700-0927	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083)973-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳島 S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下関 S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
島根	山陰ビクター販売(株) 松江 S.C.	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1-16-39
鳥取	山陰ビクター販売(株) 鳥取 S.S.	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1
	四国			
香川	高松 S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.C.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松山 S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
	九州・沖縄			
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092)-431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942)-39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093)921-3981	802-0064	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097)543-1422	870-0882	大分市大道町4-1-2
熊本	熊本 S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982)35-7707	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098)898-3631	901-2227	沖縄県宜野湾市宇地泊760

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0403

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様

・本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

映像入力端子			**入力感度／インピーダンス**
	映像（コンポジット）	DVD、DBS、VTR	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVD、DBS、VTR	
		Y入力	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C入力	：0.286 V(p-p)/75Ω
	D4映像	DVD、DBS	
		Y出力	：1.0V(p-p)/75Ω
		P_B/C_B、P_R/C_R出力	：0.7V(p-p)/75Ω
映像出力端子			**出力レベル／インピーダンス**
	映像（コンポジット）	VTR、モニター	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	VTR、モニター	
		Y出力	：1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C出力	：0.286V(p-p)/75Ω
	D4映像	モニター	
		Y出力	：1.0V(p-p)/75Ω
		P_B/C_B、P_R/C_R出力	：0.7V(p-p)/75Ω
実用最大出力（JEITA）	**フロント**	100W+100W（6Ω）	
	センター	100W（6Ω）	
	サラウンド	100W+100W（6Ω）	
音声入力端子			**入力感度／インピーダンス**
	アナログ入力	TV、DBS、VTR、DVD（MULTI）	：230mV/47kΩ
	デジタル入力	同軸デジタル1	：0.5V(p-p)/75Ω
		光デジタル2/3	：−21dBm 〜 −15dBm
		(サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)	
音声出力端子			
	アナログ出力	VTR	
		サブウーハー	
		ヘッドホン（ø3.5）	
その他の端子		AVコンピュリンクⅢ（×2）	
S/N比		DVD MULTI	：87dB（'66IHF）
周波数特性		TV、DBS、VTR、DVD（MULTI）	：20Hz〜20kHz（±1dB）
FMチューナー			
	受信周波数	76.00MHz〜108.00MHz	
	アンテナ	75Ω不平衡型	
AMチューナー			
	受信周波数	531kHz〜1629kHz	
	アンテナ	アンテナ外部端子（ループアンテナ）	
その他			
	スリープタイマー	10、20、30、40、50、60、70、80、90分	
	電　源	AC 100V、50Hz/60Hz共用	
	消費電力	電源「入」時	115W
		電源「切（待機）」時	2W
	最大外形寸法（幅×高さ×奥行）	435mm×69mm×330.5mm	
	質　量	約6.5kg	

- JEITAは電子情報技術産業協会に定められた測定方法による数値です。
- 付属品については***2*** ページをご覧ください。

音声信号/サラウンド対応表

本機でお使いいただけるサラウンドと音声信号の対応表です。
詳しくは「サラウンドを使う」(➡ ***39***～***43*** ページ)をご覧ください。

サラウンド / 音声信号	STEREO サラウンド「切」	DOLBY DIGITAL	DTS	AAC	PLⅡ MOVIE	PLⅡ MUSIC	LIVE CLUB	DANCE CLUB	HALL	PAVILION	ALL CH STEREO
ドルビーデジタル (マルチチャンネル)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ドルビーデジタル (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
DTS デジタルサラウンド (マルチチャンネル)	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
DTS デジタルサラウンド (2 チャンネル)	○	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
MPEG-2 AAC サラウンド (マルチチャンネル)	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×
リニア PCM	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○
アナログ	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット

別売りのオプション品

• オーディオコード	: CN-510E
• DVD用オーディオコード	: CN-D210E（ピンプラグX6～ピンプラグX6）
• ビデオコード	: VX-110E
• Sビデオコード	: VC-S110E
• D端子コード	: VX-DS110（Dプラグ～Dプラグ）
	: VX-DS210（Dプラグ～ピンプラグX3）
• 同軸デジタルコード	: CN-D110E
• 光デジタルケーブル	: XN-110SA
• パワードサブウーハー	: SX-DW303
• アンテナコネクター	: VZ-71A

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
(品番は変更されることがあります)

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
*51*ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル 0120－2828－17 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 東京 ☎(03) 5684-9311 FAX(03) 5684-9317 〒113-0033 東京都文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル 大阪 ☎(06) 6765-4161 FAX(06) 6765-4891 〒550-0013 大阪市西区新町3-1-31 新町レナウンビル

ビクターインターネットホームページアドレス　http://www.jvc-victor.co.jp/

日本ビクター株式会社
AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528　神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0503NHMMDWJEIN